

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	久保田 理

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学（旧約聖書）	1	前期	必修	はい	64

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①1年生の必修科目であるため、受講動機はその点に集中している。 ②チャペルアワーと関連付けられた科目であるため、聖書を読むこと、祈禱をすることの実践を毎回の授業で行うことで、youtubeチャペルの視聴意識を高める。 ③キリスト教に対する理解を持つことを目的に、キリスト教の礼拝で行われていることについて段階的に講義を行う。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均点は84点であり、再試対象は0名であった。 全員が標準的レベルに達していた。 知識理解という点では十分な理解が得られたと考えられる。 実践の点ではyoutubeチャペルを視聴しレポートを実施することで、キリスト教礼拝を体験することが授業内容の確認につながったと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「総合人間科学」の「文化と宗教」であるが、本学の建学の精神である「感恩奉仕」を学ぶ科目であり、必修である。多くの学生がキリスト教に馴染みがないため、社会との接点を示しながら理解の助けとしたことから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から達成度は十分と判断出来ることから、内容的には妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価における平均値は問題がないと考えられる。 学習量の評価では、予復習時間の解答に「0回」が多かったこと、また自発的学習の解答に「していない」が多かったが、授業の内容で理解できたとする解答も多く、課題を出す等で対応することも考えられる。 また、学生の意見でも「何をすれば良いかわからない」があったが、この点も課題を出す等で考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	キリスト教主義学校としてキリスト教理解の入り口となるのが本科目の位置付けである。その意味では知識理解の形成では達成出来た。また、youtubeチャペルの視聴と合わせて、キリスト教礼拝の実際にもふれる機会があり、理論と実践の実施も出来ている。キリスト教の価値観を学ぶことは、新しい視点を得ることにもつながり、判断の多様化を促すことにもなっている。 ただし、そのことを得たと実感することとは別になっている面もあり、本科目の課題として考えて行きたい。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	浅野 嘉延 ・ 東 彩子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教と西南女学院のあゆみ	1	前期	必修	はい	66

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	科目の名称通りキリスト教に重点を置き、また、西南女学院と大学の歴史的転換点においての内部での議論やその後の方向性について講義出来る方々を厳選させていただき、講義を行った。宗教主任補佐のラス・ボーク先生は本学院についての研究者であるため、動画による3回の講義をお願いした。クラスポートフォリオ7回、及びまとめレポート30点で合計100点とし、すべてGoogle Classroom経由で回収するようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の出席率は全ての講義時間において各学科で90%を超えており、出された回答は熱心にかかれ、講義の内容も十分に把握されていた。講義者により多くの画像が配信されたため、印象深い回答がほとんどであった。したがって大部分の学生の成績は優、あるいは秀であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP：この科目は総合人間学の必須科目であり、本学の寄付行為や建学の精神、また、大学の設置趣旨の最初の項目に相当し、CP上妥当であると考え。 DP：この科目の目標は①西南女学院の歴史を知り、建学の精神「感恩奉仕」について理解を深めることができる。②設立者や宣教師たちの精神と働きを学び、「西南女学院生」としての自己形成を深めることができる。③キリスト教に基づく女子教育の意義を理解し説明できる、であり、DP1-1とDP4－1に相当しており妥当と考える。 上記より、内容的妥当性に問題はないと思われる。 なお、全学科の到達度自己評価の平均値は3.8で、自由記述からも特に問題点は見られなかった。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、全学科で提出物の評価基準、学習範囲や課題、理解しやすさの平均は4.3であった。しかし、ネット授業のため学生参加の機会、質疑応答の機会が乏しいとの評価だった。次年度、対面授業が再開した際には、学生が発言できる機会を積極的に設けていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	昨年に引き続き本年も遠隔授業を行わざるを得なかったが、遠隔授業参加への積極性はどの学科の学生も高かった。次年度は100周年ということもあり、引き続き、本学の歴史や特色を十分に理解した上で、それぞれの専門科目に取り組み、西南女学院生としての自己形成の土台を築くことができるよう、内容を工夫したい。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅠ	1	前期	必修	はい	61

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	大学は、学生自らが目的をもって主体的に学ぶ場であり、基礎的な知識の上に、着想力、論理性、表現力、独創性などの力が求められる。これらの力を獲得するためには、ただ単に基礎的な知識を効率よく覚えるということではなく、自らが積極的に課題を探究していく姿勢をもたなければならない。 本セミナーは、初年次セミナーⅠおよびⅡで構成されており、スタディ・スキルズを身につけ、大学での学びの質を高めることを目的とした。初年次セミナーⅠでは、個人あるいはグループでの学習活動を軸に、大学で学ぶためのスタディ・スキルズの基本である「聞く」「調べる」「読む」「書く」「考える」の強化を図った。具体的には、講義の聴き方、ノートの取り方、本の読み方、レポートの書き方、より深い学びを得るための文献検索、インターネット等のICT活用法など、大学で主体的に学ぶ技法の習得を目指した。また、情報倫理に基づくメディア・リテラシーの習熟を図った。 受講動機は、必修であるが故に動機の特長は見出せない。また、学生の入学時の状況は、学修の準備性は期待できない。この科目は学習の準備方法を教え、準備性を高め、学習効率を高めるセミナーである。本講の受講後に格段の学修準備性が高まると考える。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の本試験成績の平均87.2±5点であり、標準的レベル(70点以上)に達した。本試験の難易度が低かったのではなく、全学生の修得意欲に個人差が無かったと考える。これ以上は意味を持たないが、理想的レベル(80点以上)は56名(93%程度)、標準的レベル(70点以上)は60名(100%程度)であり、約100%の学生が標準的レベル以上を達成できたと言える。 「自己達成度」は平均値が全項目で3.8～4.4の間(中央値)にあり、「授業の質の評価」も3.5～4.3であった。 ただ、予習、復習の課題がないため授業以外の取り組みは37%(21名)が参考にしていた。 シラバスの情報を参考にした者61%(35名)と、コロナ禍の遠隔授業での学生の対応は理解不足をシラバス情報から得ていたと思われる。本科目の内容は、大学の講義を受講する上で、更には管理栄養士国家試験のための学習を成就する上で極めて重要である。学生の自律的行動に繋がっているようである。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は学習の動機づけが十分達成できており、学生も一定レベル以上の良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え る。 ② DP, 行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から「知識理解」「思考判断」「意欲感心」ともに達成度は高かった。授業中のフィードバックも十分なされ、授業内容は妥当であ ったと考える。 以上から、内容的妥当性は問題ないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方 策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答を お示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価については、平均値が3.1～4.4であったことから、授業の進め方は良好でと考える。 しかし、学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習、復習をまったく行っていなかった学生がそれぞれ32%（23名）、11%（8 名）いた。また授業課題以外の学習に取り組んでいなかった学生も61%(43名)と非常に多かった。 また、授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由として、「何をしていいかわからなかった」、「特にすること・課題がなかった」、「 「他で忙しかった」が多かった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	大学での学びの質を本講で高めることが出来たという実感が、学生に評価されている。しかし定着し、実践できるようになり、研究や実 習、ゼミ、更には就職後も活かせるよう体得出来ることが目標となるので、更なる充実した内容に進化したい。 本講の他の側面として、演習的なグループ作業や、アドバイザーとの協力的作業等を通して、「学生間の仲間づくり」、「学生間の信頼関 係」、「個性と役割分担」「教員との一体感」、「教員のふれあい」等等、様々な教育に貢献できる効果が得られ、これまでの講義ではえら れない「学生と学科教育」に重要な時間であったと考える。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
運動と健康	1	前期	必修	はい	62

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	管理栄養士の必修科目のとして「健康、運動、栄養、生活習慣、人体生理学、運動生理学、運動関連代謝系」の基礎知識の理解と把握に重点を置いた。また、健康に関する情報は近年メディアを通して日常的にかつ断片的に触れている。トピックス、ダイエット、体作りを取り上げながら、自己を含めた人の健康管理をする上で必要な知識を理解できるよう授業計画を構成した。また、授業計画では教科書等の予習復習範囲を明示し、教科書の内容を繰り返し読み込ませよう促した。 出欠アンケートで、まとめと質問を設け、学生の理解度を高めた。その結果、授業で内容を理解しようという姿勢が全授業を繰り返すに従って向上した。 受講の理由は必修科目であるためが75.0%と多い。ただ、この科目に関心があると答えた学生が26.7%と低く、健康や生理学が基本となる学部でこの科目に関心が低いことは問題である。学生の各科目に対する位置付けがどのように形成されているか、専門家を育てる学科として考えるべき点と思われる。 管理栄養士の必修科目のとして「健康、運動、栄養、生活習慣、人体生理学、運動生理学、運動関連代謝系」の基礎知識の理解と把握に重点を置いた。また、健康に関する情報は近年メディアを通して日常的にかつ断片的に触れている。トピックス、ダイエット、体作りを取り上げながら、自己を含めた人の健康管理をする上で必要な知識を理解できるよう授業計画を構成した。また、授業計画では教科書等の予習
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は84.6±9.6点で、再試対象は2名であった。 全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達したものは49名（81%）であった。 目標達成できたと答えた総数は60人中60名で高値を示した。 「自己達成度」は平均値が全項目で3.0～4.0の間(中央値)にあり、「授業の質の評価」も3.0～5.0であった。「コミュニケーション力・表現力の獲得」は14名（23%）が不足を感じており、コロナ禍の影響と思われる。 予習、復習の課題が少なく、授業以外での取り組みは33人(60名中)と半数であった。 シラバスの情報を参考にした者29名と、コロナ禍では理解不十分な場合にシラバスから情報を得ようとしていると思われる。 欠席する者は少なく全員が積極的に受講していたと考える。今後、より真の関心を高めるような方法を考えたい。また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。 自由記述では、概ね分かりやすい授業だったという意見が多く授業進行は良かったと思われる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性について 本科目は「総合人間科学科目」であるが、自己の健康管理及び学生生活においても必須の基本的知識である。また、生活信念、健康志向、美容的自己管理においても大きく関わりのある科目内容である。学生が一定の成績を収めていたことから、内容的には栄養系の学生にも妥当な内容であったと考える。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性について 成績評価から、内容的妥当性は十分あったと思われる。興味が高まれば、もう少し深く進める事も出来ると考える。 ③受講動機で内容に関心がある学生よりも、単位獲得目的の学生の方が多く、「受講動機」が曖昧な学生も多い中、「学習到達度の自己評価」は60名（60人中）が達成できたと考えており、栄養科の学生に妥当な内容と考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価において、予習を全くしなかった者が31名（60名中）と良い結果と考える。 毎回授業の復習、興味関心をアンケートしたことがこのような結果に結びついたと考える。 シラバスを参考にしなかった者が31名（60名中）、授業計画を立てなかった者が32名であった。 オリエンテーションにて十分な説明をしたせいかシラバスの利用者は14名と少ない。 次年度に向けて、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、小テストの出題要点を事前に提示し、その内容を検討して授業に参加するよう促したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	健康管理、健康づくりの基礎的知識の形成は概ね達成できた。 授業過程を振り返ってみたとき、予習課題の提示などで改善を図りたい。 以上から、毎回のねらいを具体的に示すこと、可能な限り単元毎のまとめの時間をとるか、復習課題を意識的に提示するようにすることをくわえていきたい。 授業評価から、学生の意見を取り入れ、来年度に改善を行いたい。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
チームスポーツ	1	前期	選択	はい	55

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	前期の授業は5回目まで、対面で行うことができたので、学期の開始講義で、体力測定および体組成（体脂肪量等）の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係、運動効果の把握が体感できるように務めた。続いて3回の講義時間を用いて、「筋力トレーニングの方法、トレーニング機器の使い方」、「心拍数を基準とした持久性トレーニングの方法」、「ストレッチ体操の実際、ウォーミングアップとクーリングダウン」について講習を行い、授業外で、また、将来にわたり自ら運動処方できるように実施した。 6回目の授業から緊急事態宣言のため対面での実技ができなくなったため、毎回の授業で、家でできる筋トレストレッチを画面を通して動画を用いて行い、また、チームスポーツ3種目のルールの研究、トレーニング方法の調査とグループでの検討、技術向上の方法を調べ発表し、そしてグループごとに実施し、体験した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は83点（SD7）であり、再試対象は0名であった。ほぼ平均点は標準的レベルに達したが、理想的レベル（概ね80点以上として課題を作成）に達したものが44名（全55名）と予想以上に多かった。 達成度に関する自己評価では目標達成できたと思う者100%が答えた。 目標別に見ると、「知識が獲得できたと思う」、「事象理解の視点を得た」、「課題検討力を得た」、「判断力を得た」、「学習意欲が得られた」、「必要技能を得た」と答えたものは全て100%であった。ただ、「表現力の向上ができなかった者」12名(20%)、「職業倫理・行動規範の獲得が出来なかった者」3名、「職業選択の参考にできなかった者」2名おり、遠隔授業のマイナスの影響があった。 欠席する者は少なく、積極的に受講していたように感じた。また、教科書以外の資料をインターネットで利用、工夫したい。 意欲関心を高めるために、種目やその歴史背景なども説明して、もっと深みを増していくことも次年度にむけて検討したい。学生による授業評価では、知識理解の観点、思考判断の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。これは、学生が思考判断で何が問われているかを自覚していなかった可能性が考えられる。次年度に向けて、ループリックで示すだけでなく、各授業のはじめに示す「ねらい」の表現を工夫するようにしたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科目」であるが、必須科目に位置付けられ、初年度教育における友達つくりやストレス解放、健康づくりに最適である。また、運動の原理原則を実体験し確認する場として有用である。学生は積極的であり一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性は高い。（第6講義以降は遠隔のため活動量の測定は中断している） ③受講動機で内容に関心がある学生が28%で、単位獲得目的の学生が56%である。「受講動機」が曖昧な学生も多かったが、「学習到達度の自己評価」は93%が達成できたと考えており、栄養科の学生に妥当な内容であったと考える。 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	遠隔授業ではグループに分け、自己推薦または他者推薦リーダーを中心に、課題種目の技術向上のための体力要素とそのトレーニング方法、同時実施時間、また技術トレーニングの方法の調査、発表、グループで実践を行い、遠隔通信機能を活用でき一体感を持って自主的に運動まで行うことができた。 課題ごとに短時間で話し合い、チームとしてまとめ記録したが、その繰り返しは積極的な参加態度、リーダーシップを産み出し、集団の中の自分の役割を意識するよう促した。今後、状況によってチームへの言葉かけの内容とタイミングを検討したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
共生社会とジェンダー	3	前期	選択	はい	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	ジェンダーに関しては、身近な問題でありながら意識されていない場合が多いことから、アクティブラーニングを実施するにあたって、アニメや身の上相談などの紙媒体、ネット上の映像、ニュースや映画の予告、CMなどの新しい動画を教材として準備した。学生にもその旨シラバスに記載し、身近なテーマから授業に関心を持てるようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	評価は、最終授業の中でジェンダーを原因とする格差が解消した未来の共生社会を新聞記事として表現し、これに対し当事者性のある課題をどこまで社会的解決に結びつけるかを採点の基準とした。ほとんどの学生がジェンダーを自分の問題としてとらえる力は身につけていた。授業の感想においては、現代社会におけるジェンダーをめぐる諸問題に関心を持ち、自分の考えを述べることのできる思考力が確認された。選択科目であり、テーマに関心の高い学生が集まったため意欲関心は高かったと思われる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	新聞記事として表現された内容から、現代社会におけるジェンダーをめぐる問題を社会的解決が必要であること、実現するための施策などへの理解は達成できたといえる。また、思考判断や意欲関心についても達成されており、おおむね内容的妥当性は認められる。ただし、国籍、人種、障害の有無などに関わらず多様な人々との共生をジェンダーの視点から総合的に捉え、女性が自立的に社会参画に関する問題を理解し、課題解決の方策を考える点は不十分な学生もいた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	オンライン上ではあったが、アクティブラーニングとなるようブレイクアウトルームを活用し、講師と学生、学生同士で意見を交換しながらワークショップ形式で授業を進めることができた。毎回、発表する担当者を決めて、またグループで発表内容を検討するなどして、主体的な学びの場となった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	ジェンダーや共生社会という概念については、もともと知識のある学生と全く初めて接する学生に分かれていたが、最終的には基礎的な知識を身につけたものと思われる。身近な問題を社会的施策といった政治や経済と関連する理解を今後はさらに深める必要はある。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保健福祉学入門	1	前期	必修	はい	66

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、1年生前期に配置された必修科目である。保健福祉学部教育への導入科目となっている。看護学科、福祉学科及び栄養学科における学びをスタートするにあたり、保健・医療・福祉の専門性を理解するために本学教員の学問領域にふれ、多職種協働の意義を理解し、社会の期待に応えるための課題の認識を深めていくものである。 受講動機には「必修科目である」が93.1%となっており、「関心のある内容である」は20.7%であり、初学者である受講生にはシラバスのみでは、授業の意図する部分については理解されにくいことが考えられる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、82.6点、再試対象者は0名であった。標準的レベルに達した者100.0%、内、理想的レベルに達した者57.1%であった。 目標別にみると、知識理解は82.6%、関心意欲は80.7%、態度は73.0%であった。 到達度自己評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が4.2、「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた」が4.2、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」が4.2、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」が3.8、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」が4.1であり、科目の教育目的は一定の成果が出ていると評価できる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、保健福祉学部を学ぶにあたっての必修の導入科目である。 到達度自己評価および最終的な成績評価からも科目の目的は、果たしていると判断でき、内容的にも妥当であると考ええる。 ②DP,行動目標からみての内容的妥当性 知識理解、意欲関心及び態度に位置付けられた科目である。知識理解は82.6%、関心意欲は80.7%、態度は73.0%であり、概ね内容的には妥当であると考ええる。態度については、オムニバス形式の講義となるため、講義開始前の導入について、担当講師との打ち合わせを次年度はさらに詰めていくことが大事と考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」については、平均値4.2であるが、一方で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」が平均値2.5、「口頭、文書など、なんらかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」が平均値2.6であった。 この結果から、主体的学習を促すための教育方法については、一方的講義とならないよう教育方法の検討が必要と考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の達成状況については、授業成績及び授業評価アンケートより計画している状況は、概ね達成できていると評価できる。 教員と学生、または学生間の双方向コミュニケーションを取り入れた教育展開について、更なる授業方法の工夫を担当いただく先生方と検討していきたい。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生物と生命科学	1	前期	選択	いいえ	53

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機が、「関心ある内容と答えた学生が48.1%」と低いため、まず、興味関心をもってもらうことを一番とした。講義では、興味や関心をもてるように「日常生活のなかで気づく体の正常なしくみと異常(疾患)」に焦点をあて専門基礎科目につなぐことを意識して講義を行った。 ② 学生の復習の機会を早期からつくる目的で、講義進行にあわせて小テストを2回実施した。また、ポイントの整理を提示して学びの振り返りを促した。 ③ 講義への積極的な参加を促す一案として、教員側から学生に質問をする、また、講義の振り返りとして、学生にスライドを見ながら復唱してもらうなどの取り組みを行った。 ④講義の後半に必ず質問を受ける時間をとった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は74.3点（±13.4）で、72%の学生が標準的レベル（70点以上）に達し、理想的レベル（80点以上）に達した学生は32%であった。筆記試験の平均点は43/60点（得点率72%）、小テストの平均点は12/20点（得点率60%）、講義後の提出課題の平均点は9.5/10点（得点率95%）であった。課題を提出していないものが1名いたが、再試験者はいなかった。 ②学生の到達度自己評価では、「学びを深めたいと意欲をもつことができた4.1」、「新しい知識など得ることができた4.3」、「専門分野について課題を検討する力を得た4.1」ではあったが、「自分なりに目標を達成した」は、3.7であった。 ③学習量の評価をみると1回30分の予習・復習を4～5回以上した学生が38%・67%、課題以外に学習に取り組んだ学生が73%であった。また、学生からは、「高校の生物の基礎のテキストをといた」、「よくわからない病気について調べた」、「ポイントの整理を毎回した」、「試験に向けてまとめのノートを作った」などの意見があった。一方、予習・復習をしていない学生が、13%・6%と主体的学習量に差がでていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 生物の基礎を学び専門科目へとつなぐ意味で、一般教養科目として1年生を対象にした本科目のカリキュラム上の位置付けは、学生の自由意見、「高校の時に理解出来なかったところもわかるようになった」、「新しく得る知識が多く、難しかったが将来のためになった」、「理系の分野は難しいと思っていたが、説明がわかりやすく楽しく学習できた」などから妥当であったと考える。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 講義内容は、上記に記載した学生の自己到達度の自己評価、知識到達度からみて妥当であったと考える。 ③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価は、"テストの評価基準の明確さ4.3"、"課題の明確さ4.5"、"説明の理解しやすさ4.2"、"質問を受ける機会を設けていた4.7"と、ある程度の評価を得た。 ②学生の積極的な講義への参加を促すために、教員側から学生に質問をする、また、講義の振り返りとして、学生にスライドを見ながら復唱してもらうなどの学生参加型の講義に取り組んだが、同時に学生の講義理解度も把握することができた。 ③講義に対する質問時間を十分にとったことは、学生の自由意見からも科目に対する苦手意識や講義内容の理解度アップの点から効果があったと思われる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	・講義内容に興味、関心をもち、関連する専門基礎科目につなぐために基礎知識を習得するという目的は、学生の到達度から見て、やや達成できたと思われる。特に遠隔授業において実施した、学生参加型の授業は、学生の反応や講義に対する理解度を把握でき、積極的な講義姿勢を促す意味で成果があったと考える。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	齋藤 朗宏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
数学リテラシー	1	前期	選択	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	例年通りではあるが、1年生、全学対象、かつ苦手な学生の多い数学ということであり、また、受講の動機からも、基本的には興味関心よりは単位取得を目的として受講している科目であるため、内容理解へのモチベーションを上げる必要から、テーマを身近なものにすることを特に意識した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業アンケートにおいては、本科目は到達度自己評価における(1)～(3)と関係が深いと考えられるが、この3カ所について、概ね「まあそうだと思う」以上の評価は得られており、やや達成されたとみるべきであると思われる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は特定の学科のカリキュラムに関連すると言うよりは、全学共通の教養科目であるため位置づけは難しいが、学習到達度について概ね達成されたと評価できるため、この点についても大きな問題はないと考えている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	PCを利用した実習を含めた授業内容である点から、オンライン授業の中でも特にオンデマンド形式との相性が良いとの判断から、昨年度に引き続いてオンデマンド形式の授業を実施し、質問等はClassroom内で受け付ける形式を取ったが、特に新入生が多いということもあり、知らない学生の中で質問するのは難しかったようで、質問、交流の機会に関して不足であった部分が見て取れた。全7回と回数の少ない授業で交流の機会を作るのは中々難しいが、最初の方の回でアイスブレイクを兼ねたグループワークの機会を作るなど検討したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	過去にグループワークをベースとした評価を行った結果不満が多く、個人課題に切り替えた結果、評価に関する不満がなくなったという経緯があり、あまり成績に影響を与えるグループワークを実施するのも難しいと考えられるが、成績に大きな影響を与えない範囲で部分的にグループワークを取り入れることは可能であると考えられ、そういった取り組みも検討したい。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ところと人間	2	前期	選択	はい	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	現代社会はストレス社会であると感じる。心理学の分野に期待が高まっている。本講義では基本となる心理学一般の基礎知識や教養的知見の修得を目指しながら、専門性のある生涯発達心理学の視点から授業を組み立てている。それは今を生きる学生に最も必要な「生き方の模索」に関わる問題だからである。昨年度の大きな課題は講義中の集中力をいかに途切れないようにキープさせるかという点であった。このため講義途中で「映像」を多く取り入れた。自由記述などを読むと概ね成功したと理解できる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	昨年度に引き続き、全体を通して達成されたという根拠は「定期試験の結果」である。優れた及び良しの合格点を取った学生はほぼ100パーセントに達した。定期試験は記述式がその中心であるが、記載の内容も的を射たものであり、しっかり書かれており理解の進んだものであった。また学生の授業評価アンケートの記述にも「ためになった」「分かりやすかった」「面白かった」などが多数あり知識理解と意欲関心について一定の水準を保ったことが伺えると思った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	昨年度と同様に、毎回の授業について、ミニ感想や質問を自主的に書いて提出するように求めている。この効果は大きく好評のようである。自由記述を見ると、これに関する「質問の回答の時間が一番良かった」「心理学だけでなく先生の人生の話が面白かった」等の記述もあり、本科目の目標である「ストレスの多い現代社会を生き抜く健康な心構えを形成する」というねらいが達成されたと評価できる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年度の問題点であった、自学自習を促すための「次回の授業までに日々の生活の中で心にとどめておいてもらいたいこと」を伝えた方が良いのではないかと授業アンケートの結果からまだまだ改善されていないと言える様である。昨年同様に学習量を高める工夫の一つとして予習の課題設定を今後さらに試行継続してみたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	講義シラバスで年度当初の学生に期待した行動目標は概ね達成出来たと思う。しかしまだ授業中に集中力が途絶え、睡眠モードに切り替わる学生が幾人が存在する。注意の仕方に工夫をくわえたい。睡眠学習者0を達成するのは容易ではない。今年度取り組んだ映像や教師の発問、討議話題の挿入などまだ工夫の余地を継続して続けたい。がんばりたいと思う。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	後藤 宇生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
経済学入門	2	前期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	最近の経済学の動向を踏まえ、現実の問題とつなげること。
--	------------------------------------

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価の平均値や中央値と、成績分布により、判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	経済学、特にミクロ経済学における、ゲーム理論やマッチング理論など、最近話題のものを知識として提供し、理解を促した。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方のコメントはほとんどなかった。遠隔授業だったため、出席管理が難しかった。この部分の工夫を考えたいと思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	概ね達成できたと考えている。課題として、出席管理と理解度をますような工夫をしたいと思います。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活の中の化学	1	前期	選択	いいえ	47

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	①本科目は選択科目である。栄養学科の基礎科目である生化学のさらに基礎に位置付けられる科目である。したがって、化学の基本的事項の中でも特に生化学や栄養学を学ぶものにとって重要な化学の基礎的知識と化学反応に関する基本的な理論・法則を重点的に扱っている。特に生化学を学んでいく上で（私の講義を理解していく上で）必要な項目に焦点を当てて行っている。学生には、化学的な用語や化合物の定義、代表的な有機官能基の代表的な反応、触媒の定義と働き、酸化還元について、最低限の定義、理論および法則を身につけることが、特に今後生化学を学んでいく上で重要であることを強調し、指導している。 ②講義は、スライド中心に進めている。Classroomに投稿した配付資料は、主に用いたスライドから特に重要と考えられるものだけを抜粋して配布した。すべてを配ると講義をおろそかにする学生が逆に増えると考えていることが理由である。 ③講義に用いるスライドは、前年のものに改訂を加えて用いた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終成績の平均は80点、受講登録者47名45名合格であった。不合格2名のうち一人は履修放棄、もう一人は再試験未受験者であった。90点以上が9名、うち1名は100点であった。80点台は17名であった。本年度の1年生は講義に意欲的に取り組んでいた。講義中に指名して質問した際に積極的に答える学生の割合が多く、講義に活気が感じられた。試験問題は、基礎的知識（化合物や代謝経路の定義等）を問う問題、基礎的な思考力を要する問題を併せて9割以上、やや高度な思考力を要する問題を若干の割合で出題した。本年度入学の学生が受講態度、意欲や積極性をこのまま高いレベルで4年間を過ごし、成長していくことを期待する。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①本科目は、総合人間科目、学部共通科目、選択科目である。内容的には妥当と考える。 ②DPでの位置づけは、知識理解を問う科目である。目標達成度は充分であり、内容的には妥当と考える。 全体としては、妥当な内容であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今年度は、数値上、良好な目標達成度が得られたと考えている。学生の受講態度は良好で、意欲もあった。今後もさらに意欲と積極性を発揮すること期待する。 本科目の講義内容は、講義のタイトルである「生活の中の化学」に鑑みると、生活や身の回りの事例等に則するという面が本年度もまだまだ不足していたと考えている。次年度以降は、タイトルに則した事例をもっと取り入れた内容にすることで、多くの学生にもっと親しみの持てる内容の講義にしていくつもりである。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本年度は、合格率、平均点とも極めて良好であった。本年度は、達成度について特記することはない。本年度の学生の受講態度は、高評価に値するものであった。このことが生化学Ⅰへとつながっていくことを期待する。次年度からも講義の内容に改良を加え、学生の意欲を高いレベルに維持していくことが課題と考える。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	十時 康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎英語	1	前期	選択	いいえ	46

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機をみると、半数以上が「関心のある内容である」「単位数を確保する」ためと回答しています。初回のアンケートなどでは英語についてかなり苦手意識を持つ学生が多く、基本的な英文法などにも不安を抱えているようでした。 したがって、栄養関連の英文を基本的な英文法をかみ砕いて説明することに力点を置きました。 また遠隔授業で行うことが決まっていたので、動画による学習と対面による質疑応答を組み合わせ、疑問点が残らないように努力しました。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の到達度自己評価を見ると知識の獲得、事象についての理解、専門分野についての項目などが平均4点を超えていることから、また成績もB以上が多いことなどから「やや達成された」と判断しました。 学生の自由記述をみても課題にもよく取り組んでくれましたし、課題以外にも単語を自主的に調べるなどをしてくれていました。 以上のことから「やや達成された」と判断しました。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機では「関心のある内容である」というのがもっとも多く、英語を学びたいから受講したことが見て取れます。到達度自己評価も各質問項目で「わりにそう思う」という回答が多く、授業の課題以外にも学習に取り組んだと回答した受講生が半数近くいました。 以上のことから内容妥当性については問題ないと判断いたします。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	オンデマンド授業が中心でしたので、双方向のやり取りが足りないと感じました。学生からもすこしそのような回答が届いていますので、オンラインであっても双方向のコミュニケーションを確保するようにしたいと思います。評価基準が少し分かりにくかったような回答をもらいました。周知を徹底していきたいと思います。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	オンライン授業（オンデマンド＋双方向配信）が2年続きました。学生からは「遠隔でしたが、動画をアップしてくれたり工夫がされていて非常に分かりやすかった。」「遠隔でも何不自由なく授業に臨むことができた」と回答がありました。オンライン授業については試行錯誤しながらも形になってきたのではないかと思います。来年度はおそらく対面授業でできそうなので、オンライン授業をする中で考えてきた「対面だからできること」に焦点を当てて授業をデザインしようと思います。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	木梨 安子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
実用英語コミュニケーション	2	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	昨年度と同様に、「食」の分野の題材を用いて基本的な英会話表現を身につけると同時に英語全般に共通する文法や語法を中心とした基本ルールの学習を並行して進めた。授業を通して重点を置いたのは「わかり易い説明指導」にある。今年度も昨年度に引き続き対面授業ではなく動画配信を用いたオンデマンド方式の授業を実施したことで、ペアやグループになっての学習活動や受講生の反応をその場で受け取りながら授業を進めていくということはできなかったが、毎回、復習としての小テストや課題の提出状況を通して理解度を確認しながら動画配信による遠隔授業を進めていくことで、英語の「聞く、話す、読む、書く」技能の向上を促した。動画配信の利点は、動画を何度も見て繰り返し学習できるという点にあると思うが、その点は受講生の英語力向上に役立ったのではないかとと思われる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生アンケート及び授業を通して提出された小テスト及び課題の内容評価を踏まえて上記の評価をつけた。毎回の授業後に提出される小テストおよび課題英文の作成の評価は概して良く、受講生ほぼ全員が好成績で当学期を終えている。ペアやグループになってのロールプレイをしたり、あるいはプレゼンテーションの原稿を作成するだけでなく実際に発表する機会があれば技能はより伸びただろうと思われる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講生の受講動機の内容を見ると、「資格取得に必要である」が一番高く60%、次いで「単位数を確保すること」が50%、そして「授業内容に関心がある」が約40%弱と続いている。その動機内容を踏まえ、自己評価の到達度では、「自分なりの目標を達成」及び、「知識を確認・修正・新たな知識の獲得」にほぼ全員が⑤～③の高評価をつけていたことは、特にDP1に適応する授業内容であったと見てよいのではないかと推察する。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	使用したテキストは、前半が一般的なテーマ、後半が専門的なテーマで構成されている。今回は、テキストを始めから順に学習していく方策を取ったため後半には進めなかった。次回はこの点を改め、前半と後半のユニットをバランス良く学習する方策を取り、専門分野に対する学習意欲により対応できる授業を進めていきたいと思っている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総括的に今回の授業は、コミュニケーション技術の知識習得という点ではある程度の達成はあったと思われるが、会話を中心とした技術の面ではアクティビティが不十分であり、また専門性という点においても内容が充実していたとは言い難い授業であった。来年度はこの点を踏まえ、今年度同様、基本文法の習得を基盤に、一般性と専門性の両分野をバランス良く組み込んだ内容で英語表現習得の学習活動を展開していく予定である。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ハングル入門	1	前期	選択	はい	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	韓国語が初めての受講者が多いことから、ハングル文字でつまづかないように経験上理解しにくいところを先回りして解説するなど、わかりやすい授業を第一に心がけた。また受講動機において、80%近い学生が「関心のある内容である」との回答をしていることからわかるように、もともとK-POPや韓流ドラマなどの影響を受けている学生が多く、できるだけK-POPアーティストや韓流ドラマ俳優などが使うフレーズや言葉なども文法学習で取り入れながら、学生が韓国カルチャー情報を見る際に実際役立つような授業も心がけながら、学生の自発的な韓国語学習を促すことに重点を置いて取り組んだ。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎週の提出課題についてみると、回数が進むにつれて学習の成果が表れており、後半に向けては完成度の高い内容の課題を出せるようになっていった反面、遠隔授業により目が行き届きにくい点もあったと考える。到達度自己評価の平均点、中央値からみて教育目標は到達したと考えている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義は語学学習を通じて韓国という国・地域に興味をもち、言葉に現れる文化の違いなどを理解し、また実際に韓国語を話すことによって異文化への理解を深めながら学習が可能になったと思うので、「社会人として基礎的な教養を身につけている」というカリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性は問題ない考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方は課題の出来具合をしっかりと把握し、つまづいている受講者がいれば個人的に質問を受けて指導にあたったりもした。遠隔授業の進め方については学生からアンケートを取り、意見を取り入れながら授業の作成に臨んだ。授業の予習と復習の時間が若干伸びていないのは宿題が易しすぎたか、自主性を重視したためか、評価に直接つながらない学習には積極的ではないと感じた。いずれにしても前期に履修すべき語学の基礎的レベルには達したと思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本講義ではハングル文字の書き方、正確な発音など、これからの発展的な語学学習の重要な基礎を身につけることができ、韓国語でのコミュニケーションの第一歩を確実に踏み出せたと思う。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	本間 学

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
メディアリテラシー	1	前期	選択	はい	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	選択科目であり、さらに学生のスキルの幅も大きいことが予想されたことから初心者を中心として時間を掛けて説明し課題を設定した。 今回の受講動機をみると「関心のある内容」が65.5%、「単位数を確保する」が55.2%と、少し消極的な理由から受講した学生が多いことが示唆するものであった。できるだけ具体的な例を挙げて、関心を持たせることをしてきた。 ①著作権、SNSの利用、スマートフォン利用に関して動画を利用して理解を深める工夫をした。 ②学生が興味を持ち、パソコン等の機器を積極的に利用する姿勢を作るような課題を工夫をした。 ③PowerPointでのプレゼンテーションにおいて個人の技術習得を目指し個人毎にプレゼンテーションを作成しグループ毎で全員が発表した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の成績の平均値は79.5であり標準偏差は11.8であった。成績は課題(60%)、プレゼンテーション(40%)として評価した課題の提出、出席状況、およびプレゼンテーションの発表状況は良く、理想レベル(80点以上)を少し下まわっているが0.5であることから良しとすべきだろう。 学生の到達度自己評価の平均値は3.6～4.3であり、基礎教科であることから自分が学ぼうとしている専門科目との関連性での評価が低いが、「まあまあ」と「わりに」にのみ集中しているので、善くも悪くもなかったという実感ではないかと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「総合人間科学」であり、選択科目である。大学のカリキュラムポリシーにIT活用能力が含まれること、および成績評価から内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から達成度は十分と判断出来ることから、内容的には妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「自分なりの目標を達成した」の平均が4.3、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が4.3と高かった。学生の成績を踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては、さらに知識を深める努力をするとともに、質問がもっと増え、学生がより積極的に授業に参加できるよう改善していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	課題の提出率が非常に高かったことから、授業目標達成のためのプロセス遂行は、問題なく行われたと考えられる。ただし、授業過程を振り返ってみたとき、学生同士、学生と教員でのコミュニケーションをとる時間が足りなかったことが到達度自己評価、授業の質評価から分かったのでオンライン時に質問できるようにしたが、問いかける時間やチャットでのコミュニケーションを取る機会を増やす工夫が必要であるように思うので来年度にオンライン授業がある場合には改善を行いたい。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	相良 かおる

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報処理基礎	1	前期	選択	いいえ	63

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本年度は対面授業と遠隔授業のハイブリッド授業であったことから、遠隔授業に必要な操作の習得を最初に行った。授業の内容については従来の通り、「情報処理基礎」の名称から連想される内容とは異なり、操作技術を習得する課題ではなく、情報を検索し、思考しまとめる課題を課した。 また、サイバー事件に巻き込まれないための知識・技術を見につけることを重視している。具体的には、タイピングの練習に日本国憲法の全文を打たせ、読めない用語にルビをふり、意味を調べ、印象に残った条文とその理由、意見・感想を最後に付加しレイアウトを整えて提出させた。 ネット犯罪および著作権に関しては、警視庁のサイトで公開の対策ビデオを視聴しWordでレポートを作成する課題を課した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績は、AクラスはA：22.9% (13.5%)、B：40.0% (32.4%)、C：25.7% (40.5%)、D：8.6% (8.1%)、J：2.9% (0%)、BクラスはA：17.9% (17.0%)、B：50.0% (48.6%)、C：28.6% (25.7%)、D：0% (5.7%)、J：3.6% (0%)であった。 授業評価の折に行った、行動目標について「出来る」「なんとか出来る」「出来ない」の3段階自己評価における「出来ない」の割合は、(1) 7%(17%)、(2) 14%(0%)、(3) 7%(3%)、(4) 7%(1%)、「出来た」の割合は、(1) 19% (7%)、(2) 67%(78%)、(3) 26%(13%)、(4)は51%(55%)であった。 (1) 2進数およびデータ量の単位と接頭辞を理解する。 (2) ネットワークエチケットを守ることができる。 (3) インターネット事件の概要と予防方法を説明できる。 (4) WordおよびExcelの基本機能が使える。 成績および行動目標の自己評価の結果より、教育目標は達成されたと判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP, CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性については、成績評価および行動目標の自己評価の結果より、「知識・理解（DP1）」「技能表現（DP5）」共に内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	スマートフォンやipadなどの普及により、家庭等でパソコンに触れる機会が減っており、タイピングの練習に時間を割く必要があると感じている。 また、サイバー事件の被害者・加害者にならないためにある程度の時間を確保する必要があると考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	大きな問題はなかったと考えている。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	相良 かおる

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報の理解と表現	2	前期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機をみると「資格取得に必要である」92%となっており、ほとんどが教職課程の履修生であることが分かる。 そこで意欲的に課題に取り組めるように、身近な問題で、かつ教材となるようなテーマを取り上げた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績は、AクラスはA：83%、B：17%（32.4%）、BクラスはA：14%（17.0%）、B：86%であった。 授業評価の折に行った、行動目標について「出来る」「なんとか出来る」「出来ない」の3段階自己評価における「出来ない」の割合は、（1）0%、（2）0%、（3）0%、「出来る」の割合は、（1）27%、（2）9%、（3）0%であった。 ① テキスト、図、グラフ、表を使って読みやすく、見やすい文書が作成できる ② テキスト、図、グラフ、表を使って見やすく、魅力的なスライドが作成できる ③ テキスト、図、グラフ、表を使って読みやすく、見やすく、魅力的なポスターが作成できる 行動目標の評価において「出来ない」と回答した学生はならず、全員がレポート、スライド、ポスターを仕上げプレゼンテーションを行うことができた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「アカデミックスキル」の科目であり、栄養教諭1種免許必修科目である。受講生全員が栄養教諭資格を目指しており、動機付けに苦慮することはなく、学生は、提示した課題に応えるように工夫し、良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価、および行動目標の評価より内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価に全てにおいて平均が4点以上であったことから授業の進め方に問題はないと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	大きな問題はなかったと考えている。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	林 裕二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
北九州の技と文化	3	前期	選択	はい	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	3. 授業準備について 授業評価アンケート（回答者5名）の受講動機を見ると、4. 単位数を確保する（60%）、3. 関心のある内容である（40%）、1. 必修科目である、6. 友人が履修しているの2つが同じ（20%）である。外発的な動機（3. 関心のある内容である《40%》）もなされている層がいることもわかる。授業評価では、「学習量の評価」については回答者5名で、「（1）授業に参加するために、1回30分程度以上の準備をどのくらい行いましたか」に対しては、①0回が3名である。「（1）授業に参加するために、1回30分程度以上の復習をどのくらい行いましたか」に対しても、①0回が3名である。予習復習のどちらにしても、6割の学生が何もしていない。しかしながら、予習については、学生を責めることはできない。外部講師からの授業前の資料を事前に学生に提示することをしていないからであり、予習の必要性がない形になっていたからである。これを改善するには、外部講師からの資料を事前に入手して配布しておくしかない。改善をさせる指導が必要である。昨年度の外部講師の講義内容が、どちらかというと、人文系に傾いていたことがあり、本年度は保健福祉学部系の教育内容に関わる業界の講師の割合を増やした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	4. 学生の教育目標達成状況について 全般的には「やや達成された」と考える。本試験での採点対象者（16名）の成績分布は、A（31.3%）、B（6.3%）、C（6.31%）、D（12.5%）、E（不可37.5%）、J（放）6.3%である。再試受験者での合格者は3名である。最多層はAである。5学科で最も成績が分散している。授業評価アンケートの「到達度の自己評価」では、3.6～4.0の範囲内にある。成績はレポートが100%である。レポートについては、初回オリエンテーションで説明して、最後の2回の授業でも説明した。1. 参考文献の書き方、2. レポートの見本（学習技術研究会〔編著〕知へのステップ ころしお出版）、3. レポートの書式をClassroomに公開した。しかしながら、求めた書式等を理解できた層は、5割以上はいたが、そうでない層もいた。日本語の約束事（助詞、文章のつながり、段落の考え方）の段階での指導が不十分な層がいる。なお、大学の全学科の2. 到達度評価（DP）の10項目の平均を示す。看護：2.9、福祉：2.61、栄養：3.78、英語：4.18、観光文化：3.21。3. 授業の質評価（5項目の平均）は、次となる。看護：3.42、福祉：2.66、栄養：3.76、英語：4、観光文化：3であり、大まかには昨年度と同じ傾向である。おそらく、コロナ禍の影響が出ているのが、栄養学科と福祉学科であろう。評価のJ（放）が出たのは、両学科だけであり、実習で授業出席が困難であり、補講をしても、補えなかった部分があるのかもしれない。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	5. DP, CP, カリキュラムマップ上における本科目の位置づけについての評価 本科目は総合人間科学の学部共通科目中の地域創生のカテゴリーに位置する。外部講師を幅広くいろいろな分野から選んでいる。今回招いた5名の外部講師の講義がどれも英語学科学生の専門性に何らかの形で関わるものであり、将来のキャリア選択に際して、幅広い視野を持たせてくれるものとなった。このようなことから、本科目を3年前期に置くことは、妥当であると考ええる。レポート評価だったが、日本語の表現等については、底上げが必要な層がいる。それをカリキュラムのどこで行うのかの確認が必要だと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	6. 授業の進め方とその向上について 授業評価アンケート（回答者5名）については、「学習の質の評価について」は、3.6～4の範囲内にある。「5. 情報利用」でシラバスについて、1. 参考にした、2. 計画の立案の2項目では、「(1) 肯定的な回答は、2, 3名である。40%以上の学生は情報利用については何もしていない。しかしながら、外部講師からの授業前の資料を事前に学生に提示することをしていないからであり、シラバスが十分な情報を提供していないことが考えられる。これを改善するには、外部講師からの資料を事前に入手して配布しておくしかない。教員への意見は1件。提出期限を過ぎたことのお詫びだった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	7. 総括的評価と来年度に向けての課題 全般的には、目的は「達成された」と考える。大学の全学科対象の選択科目であり、受講生が多くなることが予測されるが、いろいろな背景の学生がいることを想定して、必要に応じて個別指導等を行うことが必要と考える。3年生以上であり、レポートの書き方の基礎は学科を問わずできていると期待していたが、そうではない学生もいることが分かったからである。しかしながら、教育目標にDP5（技能表現）を含まないこの授業で、レポート作成の基礎として、例えば参考文献の並べ方から指導を行う必要があるのかを自問すると、この科目担当者がそれを担うべきなのかについては迷うが、初回の授業で学生の反応を見て、レポートについては丁寧に説明をする必要があると考える。この2年間は遠隔授業であり、資料配布も遠隔でなされた。端末によっては、資料が開けないなどのトラブルは避けられない。担当者はデジタルの専門家でもないで、その場での対応が困難なこともある。次年度は、テキストは購入してもらうことで、少しでもトラブルを減らしたい。全7回の授業で、実習での複数回の欠席となる学生もいた。補講で補ったが、日程的にそれらの学生には非常に厳しい結果となった可能性がある。コロナ禍は極めて稀な社会的状況であるが、それに対応するシステムをどう構築しておくかは、ぜひとも大学で検討をしていただきたい。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ボランティア概論	1	前期	選択	はい	62

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講では、ボランティアや地域貢献活動等の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアに参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的としたものである。全7回の講義中、現在進行形で活動しておられる、外部講師を5団体招聘して、リアル講義の工夫をした。 特に自分自身で活動を行いたいと思うような気持ちを膨らませられるよう、質疑応答の時間を多く設けるように工夫した。 初回講義の時には、この講義で何をするかということを、ペーパーにして配布し詳細の説明をした。心構えと題してのペーパー（内容は休まない、協力する等の再確認、外部講師の方々へのマナー礼儀の確認）を配布して関心をもたせた。また、毎回、リアクションペーパーの記入で、自分が何をどんな風に学んだかを振り返る時間を必ず設け、考えたことを文章にて表現させ、次の時間に必ずフィードバックをした。 なお、今年度に関しては、保健福祉学部と人文学部の全学科合同でのWeb講義ということになり、多人数かつ少々リアルに欠けるところもあったかもしれないが、学生たちのリアクションペーパーから、また外部講師の先生方の力強いご協力により、十分な教育の提供ができたと思われた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体を通して目標の達成度が達成されたという根拠は、欠席が非常に少なかったということが考えられる。そのことで、学生の意識をしつかりと受け止めることができたと感じている。また、リアクションペーパーの中には、Webではあったが楽しい授業であった、普通では知ることができないことを学べた、実際にボランティアを始めた、等々の記載内容のものが多かった。当然楽しいだけではいけないので、毎回必ず振り返りを教員と学生と一緒にやって、このボランティア概論の意義と必要性を高めた。そのようなことから、最終的には全員が学びと感動を深めることができ、理想的レベルまで達成できたものとする。 講義時間内だけのものになってしまう可能性もあるので、外部講師（ゲストスピーカー）の団体の事前学習の課題を与え、考えさせて興味を持たせるよう工夫して行った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性については、学生の授業評価アンケートの評価や、最終報告から見て、内容としては妥当と考えられる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性に関しても同様で、内容的には妥当であったと思われる。以上のことから、内容的妥当性に関しては問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」で、「することがなかった」という回答があった。 地域貢献や社会活動、ボランティア等々の重要性について、より具体的に社会の中での状況を興味深く話していき、可能な限りリアルに伝わるようにして、講義以外の時間でも振り返ることができるような意識付けを深めていきたい。 事前の課題をほぼ毎回課したので、インターネットの利用が多かった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本講においては、学生からの自己評価やリアクションペーパー、最終講義の時の全体的感想によって、その達成は理想的レベルであると考えられる。 講義内容もゲストスピーカーの方々のご協力を得て、ウェブ講義ではあったが、シラバス通りに進化した。 次年度も同様な内容で進めていこうと考えるが、時代をキャッチした内容の講義を展開していきたい。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	阪井 俊文

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ライフイベントとキャリア支援	2	前期	選択	はい	40

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機としては「単位数を確保する」と「関心のある内容である」が多くなっている。本科目は、学生に今の時期から自身のキャリアや人生設計について積極的に考えることの重要性の理解を促し、必要な知識を提供することを目的としており、単位取得を目的に履修した学生にとって、結果的にこの目的が伝わっていれば問題ないと考えている。今年度は、例年に比べて本学科の履修者が多かったが、履修者が少なかった学科もあり、学科により登校日を分けるという変則的な時間割が、履修するか否かに大きく影響したとみられる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	講義後に毎回、コメントの提出を求めたが、その記述内容から、多くの学生が真面目に受講し、自身のキャリアと結び付けて考えていることが伺えた。アンケートの自由記述では、他の履修科目の課題に追われ、本科目の予習/復習には時間が割けなかったという意見が多く見られたが、科目の性質上、学科の専門科目よりも優先度が低くなるのはやむを得ないと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	アンケートの「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」や「職業選択の参考になった」という項目で肯定的な回答が多くなっていることから、本科目の目的は概ね達成されていると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今年度はすべての回が遠隔での実施となったが、講義形式の科目であるため、対面の場合とほぼ同様の内容で実施することができた。ただし、授業回数が元来8回しかない科目であり、今年度は7回に減ったために、内容を一部減らさざるを得なかった。アンケートの、授業の理解度などの指標において否定的な評価はほとんど見られないことから、授業の進め方などにおいて特に問題はなかったと考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	今年度は、昨年度に引き続きコロナの影響で遠隔授業と講義回数の削減という制約を強いられたが、すでに学生が遠隔授業に慣れていたこともあり、スムーズに授業を進めることができた。学生に課したレポートの内容から、学生がキャリアについて考えることを促すことができたと考えている。次年度以降も、社会情勢を踏まえ有意義な知識を提供できるよう努めたい。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	藤和 太

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆衛生学Ⅰ	2	前期	必修	いいえ	71

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①公衆衛生学は必修科目であり、国家試験資格取得に必須である。内容が幅広く、知識理解と思考判断が重要になる。受講動機を見ると、「必須科目である」100%、「資格取得に必要である」53.6%で、「関心のある内容である」17.4%で、関心が低い内容であることを示唆するものであった。 ②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。予習・復習について説明を行った。 ③授業で使用する配付資料を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。 ④授業中の学生たちの勉強意欲・関心を高めるため、授業中の質問や討論を増やした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①本試験の成績の平均値は75.3（±9.6）点であり、不合格者は4名であった。標準的レベル（概ね70点以上として試験を作成）に達したが、成績の差は大きかった。 ②昨年度と比べると、本試験の平均点は5点上昇したが、次年度は成績を理想的レベル（平均点80点）まで上げる工夫が必要である。 ③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は100%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と答えた者も98.6%で、知識理解、思考判断については目標が達成されたと考えられる。 ④「図書館、インターネット利用」は非常に少なかったため、今後は課外課題を与え、図書館、インターネット利用を促進したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、必修科目である。管理栄養士国家試験に出題率が高く、また管理栄養士として働く上でも必要とされる知識である。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識・理解、思考判断については目標を達成したが、態度に関しやや達成された。しかしながら、理想的レベルまでは達していなかった。管理栄養士国家試験の試験問題に準じて定期試験問題を作成したので内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が4.1で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.3であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は3.6で、授業の内容はよかった。また「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.6で、昨年より上昇した。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で、講義スライドや説明に力を入れて授業を進めたい。 学生の意見として、「覚えることが多く難しいが、過去問などを出してくれるので、理解しやすかった」、「声が小さくて分かりづらい」という意見があり、次年度から改善していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、態度の面で課題は達成できたが、関心意欲の面では課題を残した。今後、公衆衛生学の仕事現場での重要性をしっかりと説明し、学生の関心意欲の向上を目指していきたい。 授業過程を振り返ってみたとき、授業中、質疑応答、発表の時間が少なかったことで、学生の積極的な発言など関心意欲を高めることができなかった。以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間を増やして、学生の関心意欲を高める努力を行っていきたい。 講義スライド、配布物（授業の参考資料）に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて授業進捗と内容説明について改善して行きたい。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	藤和 太

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康管理概論	3	前期	必修	いいえ	51

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①3年生になって統計学、栄養疫学と公衆衛生学の学習は終了したので、健康管理概論の講義は今までの勉強のまとめとして学習するよう指導し、管理栄養士国家資格取得するための意識を高め、できるだけ具体的な演習問題を解くようにしている。 ②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。 ③授業で使用する配付資料を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。具体的にはスライドの見やすさ、講義内容の論理性などについて修正した。 ④受講動機を見ると、「必須科目である96%」、「資格取得に必要である」30%で、「関心のある内容である」4%で、関心が低い内容であることを示唆するものであった。授業中の学生たちの勉強意欲を高めるため、授業中の質問や討論を増やしたい。 ⑤授業内容がはっきり聞き取れるよう言葉はゆっくり話すところかけた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①本試験の成績の平均値は88.8（±8.6）点であり、不合格者は0人だった。理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達した。 ②昨年度と比べると、本試験の平均点は高いレベルである。今年度は遠隔授業でしたが、対面試験で評価した。 ③学生による授業評価においては、「自分なりの目標を達成した」と回答した者は100%であったが、「一回30分程度の予習・復習をしたか」という質問に対し、0回と回答した者は多かった。次年度は予習・復習の重要性を初回の授業のオリエンテーションで説明する必要があると認識した。 ④「図書館、インターネット利用」は非常に少なかったため、今後を課外課題を与え、図書館、インターネット利用を促進したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、必修科目である。管理栄養士国家試験に出題率が高く、また管理栄養士として働く上でも必要とされる知識である。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識・理解、思考判断に関する達成度が比較的好かった。今年度は遠隔授業であったが、対面試験で評価した。内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が3.8で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.3であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は3.5で、授業の内容はよかったが、予習・復習の時間が想定より少なかったことが反省点である。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で、予習・復習をしっかりと、授業に参加するよう促していきたい。 学生の意見として、「わかりやすく内容をしっかり理解できました」、「健康福祉について学ぶことができ良かったです」、「いつも熱心におられます、思いやりやまじめさが感じられます」という意見があった。次年度からは学生の意見を原動力にして、頑張っていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解、思考判断の面で課題は達成できたが、意欲関心の面では課題を残した。今後、予習・復習の重要性をしっかりと説明し、学生の成績の向上を目指していきたい。 授業過程を振り返ってみたとき、毎回授業中、質疑応答の時間を設けたことで学生の思考判断を高めることができた。しかし、意欲関心についてはさらなる工夫が必要である。以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間をとり、復習課題を提示して、学生の意欲関心をあげる努力をしていきたい。 説明内容に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて改善して行きたい。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	相良 かおる

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
健康情報処理論	2	前期	必修	いいえ	76

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	従来通り、2年次になり、実習・実験の授業が多く、他科目のレポート課題が多いこともあり、思考することを重視し、100分の時間内で完結できるような内容にし、教えない授業を心がけている。 今回も、「他の科目の課題を優先した。忙しく時間がなかった。」との記述が多く見られた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	AクラスはA：8.1%、B：18.9%、C：51.4%、D：16.2%、E：5.4%、BクラスはA：5.1%、B：12.8%、C：46.2%、D：25.6%、E：10.3%であった。 授業評価の折に、以下の行動目標について、出来る、何とか出来る、出来ないの3段階で自己評価して貰ったところ、出来ないと解答した割合は、（1）7%(2%)、（2）14%(2%)、（3）7%(0%)、（4）51%(8%)であり、昨年より増加している。 (1) 適切な健康情報を検索・収集できる。 (2) 収集した健康情報について信頼できる情報か否か判断できる。 (3) 収集した健康情報を適正に処理し、問題解決、意思決定に活用できる。 (4) 健康情報を解釈する上で必要な基本的な統計処理を理解できる。 一方、出来ると回答した割合は、（1）19%(62%)、（2）67%(23%)、（3）26%(29%)、（4）8%(4%)と大幅に増加している。 対面による期末試験にしたことで、昨年のオンラインでの試験に比べて成績が低下していた。また、昨年に比べ記述統計学の時間を増やしたことから統計処理が出来ないと回答した学生が増えたと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門基礎分野」であるが、幅広い教養を身に付けるという点においては、今回、人工知能、データサイエンスの基本知識となる統計学の知識の内、記述統計学に割く時間を多くしたこともあり、内容的に妥当であると考え。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 出来ると回答した割合から、内容的に妥当であると考え。 ③まとめ 以上から、「知識・理解」においても「思考・判断」においても、学生の学力に見合った授業内容であると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	遠隔授業となり、学生の授業の理解度を知ることは出来なかったが、チャットやマイク、そしてjamboard等を使って、学生が発言する機会を設けたところ、積極的に発言できており、授業の進め方においては問題はないと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	大きな問題はなかったと考えている。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	笹月 桃子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
解剖生理学	1	前期	必修	いいえ	61

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	大学に入学し最初に受講する基礎医学知識に関する必須講義であるため、 ①なるべく平易に、また興味を持ちやすいように日常生活や医療現場での実例と関連させて、講義を行うよう試みた。 ②遠隔講義時には解剖学的な3D画像など視覚的情報を共有しながらも、ある程度一方向的に知識を講義する形は避けられないため、集中や注意が逃れないように、講義の進行に合わせて教科書と同じ図表をスライドに大きく示し、ハイライトや書き込みなどの指示も具体的に行うようにした。 ③画一的な答えだけを暗記するのではなく、体の神秘にみられる物語性という枠組みを、物語性と連結性を持って理解することを繰り返し促した。 ④内容のほとんどが新しく学ぶ知識であり、量も多いため、知識定着の促し、及び理解できていない箇所の気付きのために、毎回講義の内容について、講義終了前に小テストを行った（Google form活用あるいは対面筆記試験）。またその次の講義において、小テスト結果を共有しながら、内容を復習する時間を設けた。 ⑤折に触れ、日常生活や、医療や教育現場における栄養士の役割を紹介し、栄養士という職種の果たす役割、やりがい、責任に考えを馳せる機会を設け、社会人・専門職者となる自覚と学習意欲の向上を目指した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				どちらともいえない
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	前期試験の平均点は67.4点であり、目指していた到達レベルよりやや低めであった。また、最高点数と最低点数の開きが大きいのが特徴的であった。 到達度自己評価において、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることが、割に、あるいはかなりできた。と評価した学生は47/57人、また(6)自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた、とした学生は43/57人おり、新しい科目に意欲的に取り組み、新しい知識を得たと自覚した学生が少なくなかったことは、上記に挙げた工夫がある一定の効果を挙げた可能性も考慮する。 一方、講義内容の特性上、双方向性のやりとりや議論は行いにくく、コミュニケーション力や表現力への効果、及び授業の質評価において、(4)授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなどの、学生が参加する機会が作られていた、と評価する学生は他項目に比し、やや低く、今後意欲の維持のためにも、改善策が必要と考えられた。 毎回、講義の最後に小テストを課したことにより、32/57人の学生については復習の促しには繋がったと考えられたが、復習をほとんどしない（0～1回）と答えた学生が27/57人もあり、意欲の維持は限定的であったかもしれない、知識の定着について、その検証もふくめ、さらなる工夫を要する。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP 1 知識理解については、上述の通り、意欲的に取り組み、復習などを行うことで、ある程度達成されたと考えられたが、DP2思考判断については、一方的な知識の伝達ではない講義スタイルのさらなる工夫も必要と考えられた。また、DP5技術表現に反映できた面は限定的と言える。 到達度自己評価において、(10)職業選択の参考になった、に対し「わりに～かなりそう思う」とした学生が43/57人おり、栄養専門職になるべく道を選択した意識の促しとして、刺激となる一面もあったことが伺えた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	前期試験が60点に満たなかった学生には再試を課したが、合格ラインに達したとはいえ、同問題であったにもかかわらず点数は伸びず、学習の取り組み方に難しさを抱える学生がいることも伺え、支援策の検討を要すると考えられた。先述の通り、90/100点以上を獲得した成績優良者もいる一方で、30-40/100点台の振るわない学生もおり、基礎学力・意欲等に帰するものが窺えた。 講義の説明は理解しやすいものであった（わりと～かなり）と答えた学生が51/57人おり、遠隔のみでの講義であったが、学生たちの前向きな取り組みが窺えた。 一方で個人学習に伴う不安や焦りの声も聞かれ、学科が異なることから、他の科目における取り組みや、個々の学生の状況の把握が難しく、十分な支援に至らない面があった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生たちのうちに、純粋な学問的興味や意欲がみられ、信頼関係を築きながら、その姿勢と得た力を維持を支援できる工夫を今後重ねていきたい。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生化学Ⅱ	2	前期	選択	いいえ	72

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本講義は、科目の本質上、特に論理的思考を促すことに重点を置いて進めている。一年時の選択科目である「生活の中の化学」、および一年時の必須科目である「生化学Ⅰ」で講義した知識・理論と連動性をもたせるように心掛けている。今回の受講動機は、「必修科目である」91.8%、「資格取得に必要である」40.0%の2つに集中しており、一方、「関心のある内容である」は、例年通り低く、わずか2.4%にとどまっている。苦手意識を持っている学生は、実際には最初から取り組んでいない（人並みに学習していない）だけで、本当に苦手であるかどうかは定かではない場合が多いと考えられる。本年度は異例の遠隔授業であったが、講義中の質問に意欲的に答える学生や質問をする学生は、例年よりも多く、学生の受講態度は評価に値するものであった。栄養学と生化学はその起源が同一という見方もあり、かつ国家試験受験資格取得に必須の科目でもある。好むと好まざるにかかわらず、栄養学を学ぶことを決意した以上は、生化学に正面から取り組むべきであることを第一回目の講義で説明した。また、生化学が生理学や基礎栄養学をはじめとするいくつかの科目と関連していることを折に触れ強調しつつ講義を進めた。 ②毎年、キーワードやキーワードをまとめた資料を作成・改訂し、配布している。講義の前後、あるいは試験前に目を通したうえで、学習に取り組むことを勧めている。 ③講義に用いるスライドは、前年のものに改訂を加えて用いた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講者数は、再履修を含め72名であった。最終成績の平均は69点であった。合格者中、優（80点台）が9名、秀（90点以上）が7名うち100点1名であった。一方、不合格者は9名であった。本講義は基本的に対面方式であったが、一時期遠隔に切り替わったこともあり、学生には戸惑いがあったと考えられる。教育効果が高かったのか低かったのか、講義と試験を共に遠隔で行った本年も判断ができない。授業の質評価では「説明は理解しやすいものであった」の平均評価が3.4、他は3.6～3.9であったのに対して到達度自己評価の平均は3.7～4.0であり、いずれも例年よりは高かったが、原因はわからない。今後は、もっとわかりやすい講義にすべく工夫を加えつづけるべきであろう。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPでの位置づけは、専門基礎科目であり、卒業必修かつ国家試験受験資格取得必修である。合格率、平均点、高得点者の数から考え合わせて、内容的には妥当と考える。 ②DPでの位置づけは、知識理解、思考判断、および意欲関心を問う科目である。試験での知識理解、思考判断を問う問題の正解率から考えると、前二者に関しては、低調な内容であったと考える。やや高度な思考力をようする問題は、意欲や関心を持って普段から学習に取り組む必要がある。本年度の受講生、特に2年生は、受講態度が例年に比べて悪い、あるいは意欲が感じられないということはなかった。それにも関わらず、予想に反して例年より得点率が低かった。今後、学生により論理的思考を積極的、意欲的に行うことを特に指導していきたい。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.4であり、他の項目より低かった。説明の仕方、講義資料やスライドの図表や文章は、よりわかりやすくなるように毎年見直しと改訂を加えているが、さらなる精査に取り組むことにする。特に重要な基礎知識、論理については、次年度から今まで以上に繰り返し説明するよう、心掛けたい。次年度に向けては、思考判断の重要性をより具体的に示した上で、授業に参加するよう促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本年度の学生の受講態度は、全体としては、評価に値するものであった。本年度の平均点その他が昨年よりも低かったのは、昨年は定期試験を遠隔方式で行ったのに対し、本年度は対面形式で行なったことが原因だと考える。ただ、学生の意欲は予想外に高く保ち続けられた印象を得た。学生が本当に実力を付けているかどうかは、4年時に国家試験に向けての模擬試験を受けた時の、生化学領域での得点率をみて判断する必要がある。本年度は講義中や講義後にわからないところを質問して、解決しようとする学生が例年より多かった。学生が4年生になった時点での模擬試験や演習授業等での成績によって本年度の授業の真の評価ができるのかも知れない。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	高崎 智子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病診断治療学Ⅰ	2	前期	必修	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①管理栄養士にとって医学的知識は不可欠であるが、まだ2年生であることから、医学的検査や疾病に対しての具体的な興味は持ち得ていないと考えられる。入学後初めての医学各論であるが、1年次に引き続き遠隔授業であるため、検査機器や疾病の写真の多用したり、学生が経験したことのある病気や症状と関連付けたりして、疾病に対してのイメージを持ちやすくすることに重点をおいて授業を進めた。 ②遠隔授業であったため、スライド資料を事前に配布した。 ③遠隔授業への対応として、スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにし、文字も大きめにした。また聞き取りやすいようにはっきりと話すよう心がけた。学生側の受講状況が見えないため、授業中に質問をあてるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。 ④学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施した。学生にとって授業での重要ポイントを理解することができるように、教える側にとっても、学生の理解度を確認し、それに対処した授業内容を計画できるようフィードバックすることに努めた。 ⑤毎回の授業の始めには、前回授業の確認テストにて理解度の低かった箇所を中心に再度解説し、知識の定着を図った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	遠隔による授業では、授業に臨む姿勢を確認できないため、指名して質問する機会を持つことで意欲関心を評価した。 学生の授業評価アンケートでは、学習到達度の自己評価においてほぼ全員が「自分なりの目標を達成した」と回答していた。学習到達度自己評価は、10項目中7項目が平均値4.0点以上であり、昨年度と比べて0.2～0.4点上がっており、授業は概ね理解しやすいものであったと考える。また「新たな知識の修得」「課題検討力」において特に自己評価が高く（4.2点）、前年度（3.8点）と比較して大幅に改善することができた。「専門分野の学びを深めたいと意欲を持つことができた」と考えている学生も多い（4.1点）ことがわかり、遠隔授業においても主体的に学修に取り組む姿勢を促すことができたと考える。 今年度は授業を遠隔で行ったが、定期試験は対面で行った。遠隔授業では理解度を正しく評価することが難しいと感じていたが、本試験の成績の平均値は83.8（±6.6）点であり、再試験対象者はいなかった。全員が概ね標準的なレベル以上に達しており、遠隔授業においても対面授業に劣らず教育効果を得ることは可能であったと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」であり、必修である。国家試験に多く出題される分野であり、また管理栄養士として就業するにあたってはコメディカルとしての医学的知識を必要とすることを学生も理解している。学生による授業評価において、ほぼ全員が自分なりの目標をある程度達成したと考えており、定期試験においても一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 管理栄養士国家試験に出題される領域のみならず、就職後に医療の現場において必要とされる知識を想定して授業内容を構成した。全員が、「学びを深めたいと意欲を持つことができた」「専門分野の課題を検討する力を得た」と肯定的に自己評価しており、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価は、5項目中4項目が平均値4.0点以上であり、昨年度と比べて0.1～0.7点上がった。昨年度より大幅に改善することができ、授業は概ね理解しやすいものであったと考える。毎回の授業の最後に確認テストを行い、加えて次の授業の初めにも前回授業の復習を組み込んだことで、学生が理解できていない事項を早めに認識して対処することができた。確認テスト等を通して重要事項をくり返し理解させることは、知識の定着につながったものと考ええる。なお、昨年度より遠隔授業に伴って最終時限終了時刻が遅くなっていることもあり、自由記述においても授業外学習時間を確保することが難しいとの声が多く寄せられた。今後は、授業内容を整理し、確認テストを含めて授業時間内に知識を定着できるように取り組む時間を増やしていきたい。一方で、遠隔授業によりレポート作成などにかかる授業外時間が増えている中でも、56%の学生は授業の復習をくり返したり、授業の課題以外に自発的に学習に取り組んだりしたと答えている。さらに全員が学びを深めたいと意欲を持つことができたと考えている点も評価できる。重要ポイントをわかりやすく提示しながら授業を進めたり、事例を取り上げて検討したりしたことで、授業に対するモチベーションを高め、意欲関心を深めることにつながったのではないかと考える。授業の中で発表する機会が少なかったと感じている学生がいるが、限られた授業時間内で、質疑応答形式の機会を増やしていくことは今後の課題である。以上のことより、双方向性の授業参加を促す工夫を検討するなどの課題はあるものの、授業の質を向上させることはできたと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は専門基礎科目であり、後期の疾病診断治療学Ⅱにつながる科目として、管理栄養士に求められる医学的な基礎知識を修得することを目指した。修得すべき知識は医学、生物学、化学など質・量ともに広いため、個々の学生の理解度はさまざまである。確認テスト等を行うことで、学生が理解できていない事項に早期に対処したり、授業の中で事例を取り上げて検討したりして、学生が積極的に自己学習に取り組み、意欲関心を深めることにつなげた。成績評価および学習到達度の自己評価より教育目標は概ね達成できたと考える。遠隔授業により授業外学習時間を十分に確保することが難しくなった状況においても、一定数の学生は予習・復習や課題以外の学習に積極的に取り組んでおり、また全員が学びを深めたいと意欲を持つことができたと考えている点は評価できる。今後は、授業内容を整理することで質疑応答形式の機会を増やしたり、事例を取り上げて検討したりする時間を増やすなど、さらに学生の意欲関心を高め、興味を持って自己学習に取り組むような方策を検討していきたい。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	森田 洋

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品学Ⅱ	2	前期	選択	いいえ	69

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講義で扱う分野は、食品の種類、分類、性状、化学成分、機能性、利用法など多岐に渡り、また他の科目と重複している部分も多く含んでいることから、うまく整理をしながら、受講者が混乱しないようにわかりやすい授業を心がけて授業準備を行った。また時折、Google classroom上の課題において、講義の感想や質問があれば質問内容を記入させ、学生の理解度と学習意欲を増すための工夫を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	35名の受講生の成績は、全体の88.6%が「秀」であり、11.4%が「優」であった。単位を修得できなかったり、「良」や「可」の受講者はいなかった。またGoogle classroom上で提出してもらった「授業の感想」や「授業アンケートの自由記入欄」でも好意的な意見が大勢を占め、学生の到達度自己評価においても、全ての受講生が新たな知識を得ることができたと回答しており、教育目標としては大いに達成できたものとする。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義は食品学Ⅰで学んだ内容を基に、多岐に渡る実際の食材について学習することを目的としている。そのため受講動機は受講者の多くが「必修科目であるから」や「資格取得に必要であるから」という回答であり、「関心のある内容であるから」という回答は全体の1/4程度と低かった。受け身で学習するのではなく、今後は受講者に対して当該分野を学ぶことの動機づけをしっかりと行う必要があるものと考ええる。しかし到達度自己評価では全ての受講者が自分なりの目標を少しでも達成したと答えたことから、本科目の内容的妥当性には問題ないものと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本講義は遠隔形式であったことから、毎回、講義パートと課題に取り組むパートに分けて進めたことで理解が深まり、学習量も確保できたものと考ええる。ただし、学習内容は課題への取り組みと講義の復習がほとんどであったようで、自ら進んで興味をもったことについて調べていく姿勢は少なかったように見受けられた（受講動機が「必修科目であるから」や「資格取得に必要であるから」という回答につながる）。難しい課題ではあるが、受け身ではない学習姿勢について、もっと受講者に伝えていくことが必要に思われた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	教育目標、最終成績評価、学生による自己評価のいずれも専門科目としての役割を十分に達成していると思われる。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
調理学	1	前期	必修	いいえ	62

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①授業の始まりに、今日の講義内容についてまず「今日のポイント」を説明し、それから授業を始めた。 ②1枚のスライドの文字を大きく見やすくし、説明がわかりやすいようにした（印刷物も同様） ③受講動機は必修科目であり、資格取得に必要な科目であるため、具体例をあげ、関心を持つように心がけた。 ④章ごとに、国試に出た実際の問題を提示し、出題内容や出題傾向を説明し、覚えるポイントとした。 ⑤栄養士認定試験やフードスペシャリスト認定試験に出題される調理学の問題を毎回提示し、レポート課題と共に学習し、解答させた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の評価点は75.3±99.6点、再試6名であった。90点以上が4.9%、80点以上が31.1%であり、70点以上が39.3%、60点以上が14.8%であった。 到達度自己評価の平均値と中央値は（1）目標の達成：4.0、4.0、（2）知識の確認修正：4.5、5.0、（3）事象を理解する考え方：3.9、4.0、（4）課題検討力：4.2、4.0、（5）的確な判断：4.2、4.0、（6）学習意欲：4.3、4.0であった。 この結果より、学習意欲の向上や知識の習得、的確な判断などが習得できたと考えられる。 授業の質の評価の（3）説明は理解しやすいものであったでは平均点4.1、中央値4.0で平均並みと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 「専門基礎科目」の「専門基礎分野」である本科目は、下学年にとって基本的専門分野として重要であり、必修である。授業評価の結果より、目標の達成や知識の習得などが行われているため、学生自身の達成感が見込められる。上学年への専門知識の習得に向け、専門の基礎固めとして、内容的には妥当であるとする。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高いが、自己啓発や研鑽しようとする態度は受け身であると思われた。もっと自発的に行動させるため、「自分の意見をまとめる」、「話し合う」などの時間を取り、発表させるなどの参加型授業を組み込んでいきたい。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	遠隔授業でも、毎回レポートを作成提出させることで、復習及び学習効果が見られたと考えられる
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」に位置づけするため、基礎的知識の形成については概ね達成できた。遠隔授業ではあったが、毎回の授業の復習レポートと共に、国試関連の問題を解き、調理理論及び調理科学の理解を促し、学習効果を高めたと考えられる。しかしながら、この科目は1年次に習得するため、国試対策を行う4年次の時点では、学習内容が非常に希薄になっている。そのため、繰り返し学習させることが重要である。後期行われる対面授業（応用調理学実習）では、実技の習得と共に、リモートで確認できなかった知識の習得度も考慮しつつ、学習効果を高めていくことが課題と言える。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
フードスペシャリスト論	1	前期	選択	いいえ	40

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①この科目はフードスペシャリスト認定試験受験資格として必要な必修科目である。そのため「専門教育科目」、「専門基礎分野」の選択科目である。必要科目12科目のうち、この科目は1年前期に開講、それ以降9科目は2年前期後期に受講、残り2科目は3年前期に開講される。認定試験の受験の有無は任意で、3年後期に実施されるため、個人の計画的な自己学習が重要である。 ②今回の受講動機は「資格取得に必要である」が70.3%で資格取得希望者が多いと見受けられた。また、「関心のある内容である」59.5%に対し、「単位数を確保する」が48.6%と多く、資格取得のための受講者でない割合が近年増加している傾向である。 ③出題範囲の講義を行い、その後、過去問を配布し、繰り返し学習するよう促した。認定試験は3年後期であるため、自己学習の必要性を説明し、学習意欲を促すよう努めた。 ④過去問や専門問題などの印刷物を配布し、毎回授業の復習レポートと過去問の解答を課題として提出してもらった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の自己評価到達度の平均と中央値は、「知識を確認、新たに知ることができた」が4.3、4.5点と高く、認定試験合格に寄与していると考えられる。また、成績平均値は84.9±5.9点であった。理想レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達していたのは39名中34名であった。再試はいなかった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」の選択科目で、フードスペシャリスト認定試験受験資格として必要な必修科目である。授業準備の欄で指摘したように受験に必要な科目12科目のうち、本科目を含む10科目は2年生までに履修し、のこり2科目は3年前期に開講される。そのため、3年の12月に試験が実施されるまでの自己学習の動機付けに苦慮する面がある。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 過去問をよく学習しており、問題内容もよく熟知され、問題数も少ないため成績が非常に良かった。 ③まとめ 以上から、認定試験用の受験科目の1科目としては内容的妥当性に問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	認定試験受験科目のため、講義の内容として、過去問出題率の高い項目に関して特に重点を置いて学生に周知させたい。 認定試験の日程と授業等の課題提出の締め切りが重複し、認定試験のための学習や試験対策の妨げになることがあるため、日ごろからしっかりと復習を行い問題に慣れ、解答できるようにと促した。 選択科目であるフードスペシャリスト論は出題内容や出題傾向が過去問等で開示されており、また、認定試験の12科目の1科目にすぎないため、過去問を繰り返し学習する必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	遠隔授業であったため、講義後復習のためのレポートの提出を実施した。また、その回にかかわる過去問を提供しあわせて課題として提出させた。この科目は、選択科目であり、任意の検定試験であるため受験の有無によって学習意欲に差が認められた。資格取得のために受講する者と単位数の確保のためだけに受講する者との学習意欲の差が顕著であった。 学習のレベルを資格取得希望者を基準におき、過去の出題数が多い内容に重点を絞り、また、講義内容が単調にならず、飽きさせないようにスライド等の工夫を行う。さらに、複数回の小テストの実施により、問題に慣れされることが合格レベルまで学習能力を引き上げる要因であるとする。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
フードコーディネーター論	3	前期	選択	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①この科目はフードスペシャリスト認定試験受験資格として必要な必修科目である。そのため「専門教育科目」、「専門基礎分野」の選択科目である。必要科目12科目のうち、この科目を含む2科目のみ3年前期で開講され、その他の科目は2年生までに履修済みである。認定試験は3年後期に実施されるため、個人の計画的な自己学習が問われる。 ②今回の受講動機は「資格取得に必要である」が87.5%で資格取得希望者が多いと見受けられた。また、「関心のある内容である」25.0%に対し、「単位数を確保する」が37.5%と多く、資格取得のための受講者でない割合が近年増加している傾向である。 ③出題範囲の講義を行い、その後、過去問を配布し、繰り返し学習するよう促した。また、2年生までにすでに履修した科目の復習をすすめ、認定試験の概要について説明し、学習意欲を促すよう努めた。 ④過去問や専門問題などの印刷物を配布し、毎回授業の復習レポートと過去問の解答を課題として提出してもらった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の自己評価到達度の平均と中央値は、「知識を確認、新たに知ることができた」が4.0点と高く、認定試験合格に寄与していると考えられる。また、成績平均値は83.6±12.4点であった。理想レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達していたのは30名中23名であった。再試は1名であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」の選択科目で、フードスペシャリスト認定試験受験資格として必要な必修科目である。授業準備の欄で指摘したように受験に必要な科目12科目のうち、10科目は2年生までに履修済みで、本科目を含む2科目のみ3年前期に開講される。そのため、12月に試験が実施されるまでの動機付けに苦慮する面がある。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 過去問をよく学習しており、問題内容もよく熟知され、問題数も少ないため成績が非常に良かった。 ③まとめ 以上から、認定試験用の受験科目の1科目としては内容的妥当性に問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	認定試験受験科目のため、講義の内容として、過去問出題率の高い項目に関して特に重点を置いて学生に周知させたい。 一昨年は、定期試験の日程が他の科目と重なり、学習や試験対策にあてる時間不足であったように聞いている。そのため、日ごろからしっかりと復習を行い問題に慣れ、解答できるようにと促した。 選択科目であるフードコーディネート論は出題内容や出題傾向が過去問等で開示されており、また、認定試験の12科目の1科目にすぎないため、過去問を繰り返し学習する必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	遠隔授業であったため、講義後復習のためのレポートの提出を実施した。また、その回にかかわる過去問を提供しあわせて課題として提出させた。この科目は、選択科目であり、任意の検定試験であるため受験の有無によって学習意欲に差が認められた。資格取得のために受講する者と単位数の確保のためだけに受講する者との学習意欲の差が顕著であった。 学習のレベルを資格取得希望者を基準におき、過去の出題数が多い内容に重点を絞り、また、講義内容が単調にならず、飽きさせないようにスライド等の工夫を行う。さらに、複数回の小テストの実施により、問題に慣れされることが合格レベルまで学習能力を引き上げる要因であるとする。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
人体の構造と機能基礎実習	1	前期	選択	いいえ	65

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は一年前期の選択科目であり、内容は、生化学および生理学の初学者向けの実習と実験である。本来は生化学担当の尾上および生理学担当の岡部のふたりで行っているが、本年度は全回を尾上が行なったため、内容はすべて生化学的なものとなった。今回の受講動機をみると「必須科目である」と答えたものが74.4%多く、次いで「資格取得に必要である」が48.8%であった。本年は、「関心のある内容である」を受講動機とする学生が32.6%と多かった。生化学（本来はおよび生理学）の基礎的知識が、管理栄養士の実践の場でも重要であり、そのことを理解し、「関心のある内容である」を受講動機とする学生が増えたことは喜ばしいことである。 ②生化学、生理学などの基礎科目は、苦手とする学生が栄養学科のなかで多い科目であるが、座学で学んだ内容をただ単に丸暗記するのではなく、関連する実習体験を通してからだのしくみを理解し、将来の管理栄養士としての実践活動に役立てるために本科目は構築されている。しかし、本年度は岡部が担当することなく、また対面と遠隔が入り混じる結果になった。学生が自分で実験実習を行わず、教員が実験を行うのを画面を通して見学し、実験から得られた結果(データ)がClassroom等で配布されるのを受け取って、それに基づいてレポートを書くということもあった。その結果、内容も例年より偏ったものとなり、また実習といよりも座学に近い側面をもった実習授業であったので、本来本授業で大切に、重点を置いていたことを実施することができないことも多かった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成されなかった	どちらともいえない		どちらともいえない		やや達成されなかった
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均点は81点で、受講者65名中64名が合格した。1名の不合格者は1度も出席しなかった学生であった。本科目の成績は元来、学生が自ら実験・実習を体験し、結果(データ)を得る過程での態度、取り組み方、技能など実技点に当たるものとレポートの点数を総合して決定してきた。本年度は学生が自分で実習を半分ほどしか行っていないため、遠隔授業の回では参加しているだけで実技点が満点となるため、本年度の成績の数値はあまり意味を成さず、目標の達成度を評価することほとんどできないと考える。成績の数値で見ると教育目標を概ね達成できたようにも見えるが、判定することに意味を成さないため、DP1および3については「どちらともいえない」とした。学生が毎回実際に実習を行ったわけではないので、DP5については達成しようがなく、「やや達成されなかった」と判断せざるを得ない。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①本科目の位置づけは、専門基礎分野の選択科目であり、管理栄養士国家試験受験資格取得必須である。実習の内容、平均点および合格率だけをみると、内容的には妥当と考えられる。 ②DPでの位置づけは、知識理解、および意欲関心および技能表現を問う科目である。授業内容は、知識理解と技能表現を促すためのものとして、おおむね妥当な内容であったと考える。しかし、実際に十分な知識理解、技能表現を達成するためには学生一人一人が意欲的に取り組むことが大前提であり、この点は全ての実習を対面で行っていないので、公正な評価はできない。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」においては、全項目の平均は、4.14点と、昨年より高かった。全項目が4.0以上であったが、全回対面方式で実施できなかったのもので、公正な評価はできないと考える。生化学などの基礎科目は、苦手とする学生が多い科目であるので、実験・実習の体験を通じて少しでも生きた知識と理解を高めてもらう本来の目標の具現が不完全であったのは残念である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	昨年ほどではないにせよ実験・実習科目において学生が実際に実験を行うことができなかった回が多かったので、総括的には不満足な評価とならざるを得ない。次年度も遠隔授業とならざるを得ない状況になる可能性はまだ残っており、遠隔授業でいかに実習本来の教育目標・目的を達成していくのかを今から検討し準備していく必要がある。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生化学実習	2	前期	必修	いいえ	71

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	①実験を中心とした実習科目であることから、本科目は元来、事実や結果を客観的かつ正確に観察し、その上で論理的に解析、考察に取り組むことに重点を置いている。講義科目である生化学ⅠおよびⅡで講義した内容との連動性を重視している。座学で得た知識や論理をいかに実践の場で、活用しさらに発展させる力を養うことがを目標とする授業であるが、本年度は対面授業と遠隔授業が入り混じる結果となり、本来の目標・目的の達成がほとんど望めないものとなった。今回の受講動機は、「必修科目である」100%，「資格取得に必要である」44.4%の2つに集中しており、一方、「関心のある内容である」は9.5%であった。この結果は、例年通りである。 ②例年用いている私が作成した実習書に、必要な変更や改訂を加えて配布した。遠隔方式の場合、実験はすべて私が実演ビデオを撮り、Meetで配信して学生に見てもらった。分子模型を用いた実習は、各学生にあらかじめ郵送しておいた分子模型を用い、Meetの画面を通して学生に実際に模型組み立てをしてもらい、質問や議論をなんとか行うことができた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成されなかった	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終成績の平均は85点、全員合格であった。本科目の成績評価は、レポート60%、授業への取り組み40%で行ってきた。しかし、本年度も対面授業と遠隔授業が入り混じったため、学生が自分で実習を全部行ったわけではないため、遠隔授業は参加しているだけで授業の取り組み点が満点となるため、本年度の成績の数値はあまり意味を成さず、目標の達成度を評価することむずかしいと考える。成績の数値で見る限り教育目標を概ね達成できたようにも見えるが、判定することに意味を成さないため、DP1、2および3については「どちらともいえない」とした。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPでの位置づけは、専門基礎科目であり、卒業必修かつ国家試験受験資格取得必修である。平均点や合格率だけをみると、内容的には妥当と考えられる。 ②DPでの位置づけは、知識理解、および思考判断を問う科目である。授業内容は、知識理解と技能表現を促すためのものとして、おおむね妥当な内容であったと考える。しかし、実際に十分な知識理解、技能表現をを達成するためには学生一人一人が意欲的に実験・実習取り組むことが大前提であり、この点も全てを対面方式で行えなかった本年度は昨年に引き続き、評価は差し控える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価の中で「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.6で、例年通り本年度も一番低かったものの例年よりは点は高かった。説明の仕方、実習書の図表や文章は、よりわかりやすくなるように毎年見直しと改訂を加えているのは今年に限ったことではないので、原因は不明である。特に重要な基礎知識、論理については、次年度から今まで以上に繰り返し説明するよう、心掛けたい。生化学などの基礎科目は、栄養学科学生の苦手とする科目で、実験・実習の体験を通じて少しでも生きた知識と理解を高めてもらう本来の目標の具現が不可能であったことが残念である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	昨年ほどではないにせよ実験・実習科目において学生が実際に実験を行うことができなかった回が多かったので、総括的には不満足な評価とならざるを得ない。次年度も遠隔授業とならざるを得ない状況になる可能性はまだ残っており、遠隔授業でいかに実習本来の教育目標・目的を達成していくのかを今から検討し準備していく必要がある。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	長谷 静香

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品栄養実習	2	前期	必修	いいえ	70

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	初めて担当したため受講生の特性や学力レベルが分からず準備を行った。なるべくわかりやすい説明を心がけるとともに、座学で習得した基礎知識が定着するように、実際の実習では座学の内容とリンクする説明を加えながら進行了。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「到達度自己評価」の解答のほとんどが4および5であった。「学習量の評価」については、30分以上の準備・復習の機会が多くはない結果となったが、これは毎回の座学および実習において授業の現場で要点をまとめることを課題としたため当然の結果である。課題提出について若干提出遅れがあったものの受講者全員が全回すべての課題を提出し、かつ全員が最後の確認小テストを受験した。よって成績の総合評価は平均88点と高かった。以上のことから、概ね目標達成は高いものと判断される。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「到達度自己評価」の解答のほとんどが4および5であった。よって本実習において、食品加工における化学的变化について、座学で基礎知識を得た後に実際に実習にて食品加工・製造を行うことで、管理栄養士として必須のスキルを修得できたものと判断する。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質の評価」の解答のほとんどが4および5であった。また、遠隔授業であっても分かりやすく、毎回楽しみであったとの自由記述が見られ、授業の進め方には概ね問題ないと判断される。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	以上のことから総括的評価は高いと判断される。課題としては、非常勤講師のため他の科目と連携を取り関連付けて授業を展開することが出来なかった点、本実習が管理栄養士取得（試験合格率）の向上に寄与するまでに至ったかが判断できかねる点が挙げられる。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品衛生学実験	3	前期	必修	いいえ	47

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機は例年どおりで、「必修科目である」が100%に近く、「関心のある内容である」は5%未満と、極めて低いレベルに留まっている。授業を通じて、できるだけ学術的な興味と関心を引き出せるように努めた。 ②新型コロナの影響により、14回の講義のうち5回が遠隔授業を余儀なくされた。実験風景を動画に収めYouTubeに上げたものを観てもらうことで、実際の実験風景を感覚的に体験してもらった。 ③遠隔授業は、実験目的と理論の説明→YouTube動画を観る→実験データ（過去のデータを今回専用にまとめたもの）を配布→実験レポート作成→評価、という流れで実施した。 ④本科目は、管理栄養士国家試験にとって重要科目である「食品衛生学」を体験的に学ぶための科目であり、卒業後の勤務先で必要となる知識や技術を習得することを目的としており、その点に気を配りながら授業を進めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された			達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①最終成績の平均点は83点（昨年は92点、その前年は85点、その前年は84点、その前年は88点）であり、僅かに低い傾向が見られた。再試対象者は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、90点以上の秀評価が35%、16名（昨年は68%、51名、その前年は43%、38名、その前年は47%、42名、その前年は50名）、80点以上90点未満の優評価39%、18名（昨年は、25%、19名、その前年は25%、22名、その前年は19%、17名）と、これまでと比べて秀よりも優評価が多い傾向を示した。理想的なレベルに達している者が71%（昨年は93%、その前年は68%、その前年は66%、その前年は78%）という、好ましい結果であった。 ②標準偏差は14.5（昨年は8.75、その前年は15.0、その前年は12.0）であり、平均的な傾向であり良好な状態を示した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門必須選択」であり、管理栄養士国家試験における重要科目の「食品衛生学」を体験的に学び直すことを目的としているが、今回、質の高い成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から観て「知識理解」「態度」「技能表現」について十分満足いける結果が得られた。成績の質が高いことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①「説明は理解しやすいものであった」の授業の質評価で低めのポイントであった理由は、本科目が「化学」をベースにしたものであり、高校時代に化学を十分に受講していない受講生がほとんどであることが一つの大きな要因として挙げられる。この状況は昨年度も同様であったことから、実験の目的・手法・原理の説明をいかに工夫して実施するかに更なる改善が必要である。 ②「課題が多すぎる」との意見については、文科省の考えを反映して遠隔授業における課題を毎回提出する必要があったため、かつ、他の講義でも同様に多くの課題が課せられたため学生にはかなりの負担になったと考えられ、やむを得ない意見だと思われる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①通常の対面式授業と遠隔授業との混在という過去に経験したことのない形式で授業を行ったため、教員と受講生双方に負担が大きかったものの、学生が相当な努力をしていたことは事実であり、心から称賛したい。 ②成績評価を鑑みると、基礎的知識と技術の形成については十分に達成できた。 ③受講生が比較的苦手とする化学実験が含まれており、実験目的・手法・原理の解説について、昨年に比べてより改善を押し進めたつもりであったが、さらに、分かりやすくするための工夫・改善が必要であることが判った。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎調理学実習	1	前期	必修	いいえ	62

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①クラスルームをフル活用し、個別に質問に応じた。レポート提出後は個別指導を徹底し評価を行った。 ②リモートですべての実習のメニューのデモンストレーションを行い、どのような料理をどのように作成し、盛付けるかまでをわかりやすく説明した。 ③食材の購入から行い、経済的な事情等によりすべてのメニューを作れない場合を想定し配慮した。 ④楽しく、おいしくをモットーに実習を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の評価点は84.4±10.5点、再試が3名であった。90点以上が38.3%、80点以上が41.7%とまずまずのレベルであった。 到達度自己評価の平均値と中央値は（1）目標の達成：4.2、4.0、（2）知識の確認修正：4.6、5.0、（3）事象を理解する考え：4.1、4.0、（4）課題を検討する力：4.6、5.0、（5）的確な判断：4.4、5.0、（6）学習意欲：4.5、5.0、（7）必要とする技術の習得：4.5、5.0であった。この結果より、学習意欲の向上や知識の習得、的確な判断、技術などが習得できたと考えられる。 授業の質の評価では（1）課題の評価が明確は平均点4.4、中央値5.0、（2）学習範囲の明確さは平均点4.6、中央値5.0、（3）説明の理解しやすさは平均点4.3、中央値4.0であり、総合的に理解しやすかったと考えられる。 数回の自宅実習では、各家庭での食材の購入や経済的事情、調理器具や機器等の充実度の違いなど、個人での差が計り知れないが、学生の自己評価では、専門的知識や技術の習得は比較的、高い達成度であった。自宅での実習は買出し、調味料や食材の計量など、一からすべてを一人でこなさなければならぬため、大学での実習とは違い良い経験になっているようだ。しかし、自宅実習であったため、提出された課題（画像等）から出来栄を評価したが、実際はどの程度の技術や知識が身に付いたかは、後期実習で確認しながら指導する必要がある。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 「専門基礎科目」の「専門基礎分野」である本科目は、下学年にとって基本的専門分野として重要であり、必修である。授業評価の結果より、目標の達成や技術の習得などが行われているため、学生自身の達成感が見込められる。上学年への専門知識の習得に向け、専門の基礎固めとして、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高いが、自己啓発や研鑽しようとする態度は受け身であると思われた。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	数回の遠隔授業のため自宅で食事を作る場合でも、学習の準備が整い、意欲があり、情報検索などを積極的に行い実践していたことが伺われる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	リモートによる自宅実習が多かったが、積極的に調理を行っていたと見受けられた。リモートのメリットは、自身の都合や時間に合わせ、好きな時に好きなだけ時間を使って調理することができたところである。また、家族からの応援や労いがやる気につながったと考えられる。デメリットは、1年生であったため友達に聞くことができなかったことは不安材料の1つであったようだ。また、意欲のない学生は、全く課題が進まなかった。そのため1名が不合格となった。 後期対面授業では、前期の自宅実習での補足を中心に行っていく必要がある。個人の調理技術や手順などを確認し個人指導を行わなければならない。 遠隔授業では、1人暮らしの学生が多いため、調理器具の充実や熱源の確保などが問題となる。その際は、実習の内容等を小規模に変更し、経済的で手軽で簡単に作れる献立内容に変更する必要がある。指導内容をショートカットした部分の補足が重要となる。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	高崎 智子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床基礎医学実習	3	前期	必修	いいえ	52

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①管理栄養士は、医療の現場において対象者の栄養状態や健康状態を把握したうえで、栄養管理や指導内容を設定することが重要になってくる。医療チームの一員として医療現場の実態を理解するために、医療面接・身体診察法・生理検査法等に関する知識を修得できるように実習内容を設定した。 ②新型コロナウイルス予防対策として、体調チェック、マスク着用、換気、消毒などに留意しながら実施した。また手洗いの精度を視覚的に確認できるよう手洗いチェッカーを利用した実習をオリエンテーションに新たに組み込んだ。 ③各実習ではプリント資料を配布した。 ④各実習の最初に、臨床医学検査と疾病との関連についての知識を確認するために、講義形式と質疑応答形式による導入を行った。 ⑤実習の終了後には、実習時間内にレポートを作成するよう課し、理解度を確認した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	実習内容と疾患との関係については2年生の疾病診断治療学にて学んでいるが、各学生の学修準備度はさまざまである。できるだけ多くの学生が検査を実際に体験できるようにし、グループワーク・事例検討や質疑応答の機会を増やす等、主体的に参加する工夫を行った。レポート作成に際しては、インターネットを利用して情報検索することを促すとともに、参考となるURLを提示し、信頼性のある情報を得る方法について指導した。 今年度は対面にて実習を実施できたため、各検査を実際に体験できたことが学生の満足度につながったと考える。学習到達度の自己評価は3.7～3.9点であり、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の各項目は昨年度より0.1点高く、概ね自分なりの目標を達成できたと答えている。これらのことから教育目標は達成されたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」であり、必修である。国家試験に多く出題される分野であり、また管理栄養士として就業するにあたっては高度の医学的知識を必要とすることを学生も理解している。学生による授業評価において、全員が自分なりの目標をある程度は達成したと考えていることから、内容的には妥当であると考えている。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 管理栄養士国家試験に出題される領域のみならず、就職後に医療の現場において必要とされる知識を想定して実習内容を構成した。全員が、学びを深めたいと意欲を持つことができた肯定的に自己評価しており、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による到達度自己評価は3.7～3.9点と概ね肯定的であり、全員が自分なりの目標を達成したと答えている。授業の質評価は3.9～4.1点であり、「テスト、レポートなどの評価基準の明確さ」、「期間内に行うべき学習の範囲や課題の明確さ」の項目では、昨年度より平均値が0.3～0.4点高かった。また自分の意見を発表し質疑応答する機会への評価は、昨年度同様に3.9点と高かった。今後も発表の機会を増やし、興味を引く事例を提示する等により、モチベーションを高めることができるようさらなる工夫を重ねていきたい。なお、昨年度より遠隔授業に伴って最終時限終了時刻が遅くなっていることもあり、自由記述においても授業外学習時間を確保することが難しいとの声が多く寄せられた。授業の予習復習を行っていない学生も多いため、実習時間内にレポートを作成できるよう時間配分し、実習時間の中で知識を定着させることができるよう工夫していきたい。 またインターネットを利用した学生は63%に上っていた。遠隔授業にも慣れ、情報検索を利用して学修に活用していることが伺える。あふれる情報の中から出典の確かな正しい情報を選ぶ方法について指導することが今後ますます必要になってくるものと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	対面実習を実施できたことにより、実際の検査を体験することができたことは非常に有意義であった。また発表・グループワークや質疑応答の機会を持つことができ、専門基礎科目にあたる本科目において臨床的基礎知識の修得については概ね達成できたと考えている。実習レポートの内容に関しては、事例を検討する自由記述に加えて、疾患に関する重要知識を設問として問うた。これによって、これまでの授業で学んできた疾患と実習で学んだ事例とを関連付けて理解しやすくなったものと考えている。実習レポート作成を含めて実習時間内に知識を定着できるように取り組んだ。今後は、管理栄養士に求められる最新の医学的知識を得ることができるよう、実地に即した実習内容へと適宜更新していく予定である。高齢化社会等の社会的状況と関連付けるなど、学生がより主体的に取り組み、意欲関心を深めることができるよう工夫していきたい。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎栄養学Ⅱ	2	前期	選択	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①基礎栄養学Ⅱは、カリキュラムの中では選択科目となっているが、1年生後期の基礎栄養学Ⅰ(必修科目)に続く、基礎栄養学の後半を講義する科目なので、全員に履修するように指導し、実際に全員が履修している。ただ、「資格取得に必要である」あるいは「関心のある内容である」と答えたものが例年少ないが、今後とも管理栄養士国家試験の受験資格の取得に必修であること、栄養学の基礎的知識が管理栄養士の実践の場でも重要であることを、できるだけ具体例を示して強調し、受講に対するモチベーションが更に高まるように努力したい。 ②授業の最初に学習準備のため、オリエンテーションを行ない、授業計画表を配付した。 ③授業で使用するパワーポイントのスライド資料は、毎年、一部を改訂し、よりわかりやすい内容になるように努めている。ただ、今年度は5月中旬より新型コロナ感染予防に対する緊急事態宣言がだされ、授業がすべて遠隔となったため、急遽、すべての講義資料を郵送する必要があった。そのためスライドを縮小印刷して郵送したが、やはり、読みにくいという声が多く、不評であった。2年後期に栄養学実習があるが、その時に実習に関連する基礎栄養学Ⅱの講義資料を通常の大きさで印刷して再度、配布する予定である。 ④授業内容を予習・復習するための練習問題および、分野別に分類した国試過去問約5年分とその解説を配付し、予習復習の助けとなるようにした。遠隔授業の資料郵送に合わせて例年より早期に配付した。 ⑤今回の授業は新型コロナウイルス感染予防のために、すべて遠隔授業で実施されたが、遠隔では学生とのコミュニケーションがとりにく
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験成績のA、Bクラス合せた平均点(100点満点)は74.5点(±12.8)で、昨年度(92.2点)より約18点平均点が低下した。これは今年度の期末試験が対面で実施されたのに対し、昨年度の期末試験は遠隔で実施されたため事実上「持ち込み可」の状態での試験であったことが大きな差を生じた理由と考えられる。実際、一昨年度の対面で実施された期末試験の平均点は73.4点と今年度と同じレベルである。今年度の成績の内訳は、A(90点以上)が7名(9%)、B(80～89点)が21名(28%)、C(70点～79点)が24名(32%)、D(60～69点)が21名(28%)、本試験不合格者は2名(3%)であった。本試験不合格者2名のうち、1名は再試験で合格し、1名は再試験を受験しなかった。 授業評価アンケートの「到達度自己評価」では、評価項目10項目中8項目で平均値が3.8点以上で、これまでに比べ高い評価であった(今年の評価点の範囲は3.3～4.0、昨年は3.2～3.9)。特に、項目(2)「知識の確認、修正と新知識の獲得」、項目(4)「専門分野のさまざまな課題を検討する力」、項目(5)「専門分野において的確に判断する力」については、4.0と比較的高評価であった。 以上の結果より、全体的には概ね教育目標を達成できていると考えている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門基礎分野」の選択科目であるが、授業準備の項でも述べた通り、基礎栄養学Ⅰ(必修科目)と連続した内容の科目なので、全員が履修するように指導している。基礎栄養学ⅠおよびⅡの内容は、国家試験に多く出題される分野であり、その重要性は学生にしっかり伝えている。期末試験の成績も良好であることから、内容的には妥当であると考え。 今年度の授業は、コロナ感染予防のためにすべて遠隔で実施したが、遠隔による講義内容の学生への定着が十分であったかどうかについては、今後の実習や演習の授業を通して慎重に検討する必要がある。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 本科目のDPである「知識理解」(DP1)および「思考判断」(DP2)の成績はおおむね良好に維持されていること、また、“到達度自己評価”の「(2)知識の確認・修正、新知識の獲得」、「(4)課題を検討する力」および「(5)的確に判断する力」の項目が比較的高得点であったことから内容的には妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①今回の「授業の質評価」の各項目の平均値(3.5～4.0)は昨年度の評価(昨年3.5～4.1)とほぼ同じレベルであった。それ以前の評価(3.1～3.3)に比べると比較的高い評価であった。これは、練習問題や国家試験の過去問題集を早い時期に学生に配付したこと、また、昨年にも増して、授業の最後に練習問題を出し、学生に解かせ、答えさせ、質問させる機会を設けたことが高評価につながったものと思われる。例年評価の低い項目(4)「授業中の学生の発表・参加」、(5)「学生からの質問の受付とそれに対する回答」については、以前よりやや改善したが(今年はそれぞれ3.5と3.8; 昨年3.5と3.6; 一昨年3.4と3.5)、これからも更なる改善をしていくつもりである。 以上、学生の成績と併せて判断すると、授業の目標はおおむね達成できたのではないかとと思われる。 ②今回の授業は、コロナ感染予防のため遠隔授業が実施された。そのため、“授業準備について”の項でも述べたように、すべての講義資料を早急に郵送する必要があったためスライドを縮小印刷して郵送したが(一応、郵送した講義資料のファイルは、遠隔授業(Classroom)にアップロードしてはいたが)やはり、読みにくいという声が多かった。2年生後期に栄養学実習があるので、その時に実習に関連する基礎栄養学Ⅱの講義資料を通常の大きさで印刷して再度、配布する予定である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	期末試験の成績および到達度自己評価からみて、基礎的知識の形成については概ね達成できていると思われる。ただ、今回の講義は遠隔で実施されたため、これまでの成績と単純には比較できないので、コロナ感染が持続して、次年度以降も遠隔授業が続くようであれば、遠隔授業の有効性については慎重に比較検討する必要がある。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用栄養学Ⅰ	2	前期	必修	いいえ	76

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①応用栄養学Ⅰは、栄養学科の学生にとっては、卒業および管理栄養士受験資格必修の教科である。よって受講動機は「必修科目である」が100%であることは当然の回答である。「関心のある内容である」が25 %と低いことに関しては、昨年度よりも数値はあがったものの、学生の関心をひきつけるような講義の実施が出来なかったことも推察されるため、講義内容の見直しも図りつつ、続く応用栄養学Ⅱの講義に関心をもって臨んでもらうことが出来るようにしていく必要がある。 ②今年度前期は対面および遠隔による講義であったが、これまでと同様、スライド資料を配布し、その資料には、板書を書き写すため（オンラインでも直筆の板書を用意）のスペースを設けるなど、資料作成に努力はしている。また、毎回の授業終了前に、その日の講義の復習小テストを行い、解説して、提出させている。その小テストには、授業理解度を%で自己評価させ、意見や質問をうける欄も作成している。毎回、質問欄には、学生たちから色々な意見や質問が記入されており、それに必ず返答して返却するよう努力している。その結果、学生たちが意欲的に講義に臨む姿勢がうかがえた上、「興味もてる内容であった」「楽しく講義を受けた」というコメントもあった。小テスト（対面でも遠隔でも実施）、授業理解度の自己評価に関しては対面での講義の場合には今後も続けていく予定である。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(意欲関心)に関しては、試験およびレポート結果から評価した。結果はA,Bクラスで、A(秀)が11.8%で、B(優)が18.4%であり、C(良)が23.7%、D(可)が14.8%であった。不可の学生は31.6%であった。DP4(態度)やDP5(技能・表現)に関しては、小テストへの取り組みにて評価をおこなった。受講生70%が標準的レベルに達しており、11.8%の学生が理想的レベル(今回は秀90点以上として試験を作成し評価した)に達していた。理想的レベルの学生は、まだまだ限られてはいるが、受講生の多くに、受講に対する意欲の高さはうかがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断および意欲関心に関する自己評価が高い。講義への関心の高さは、試験結果や、自己評価で判断することが出来たが、学習量の評価では、約37%の学生が講義の課題以外に学習に取り組んでいない、また約45%が予習および復習を一度もしていないかった。シラバスを活用し、予習・復習を促すことは実施したが、他の教科の課題との関連もあり、学習時間を設けることが難しいことをアンケートの自由記載のところに書いている学生が多かったため、学修時間の確保に関しては学科全体で検討していく必要がある。また前期はオンライン時は無理であるが、対面ではこれからも小テスト返却による復習の促しを続けていきたいと考えている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である、卒業必修でもある。また基礎栄養学とともに、管理栄養士カリキュラムの専門分野6科目の1つに位置している。また、専門基礎科目から専門科目へのつなぎの科目（基礎から専門への入り口科目）でもあると考える。このことから、受講動機の「必修科目である」が100%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果、授業アンケートの自由意見から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価では、約45%の学生が予習、復習を一度もしていないと回答した。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にしなかった学生は48%と高かった。必修科目であるため、シラバスを参考にしなくとも、本科目の履修は卒業条件だというのが学生たちにあると考えられる。また、講義の初回にシラバスを配布し、一緒に目を通していているため、その後にシラバスを参考にする必要がなくなったことも考えられる。今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していき、常にシラバスを参考にするように促していく。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促した。昨年度に比較すると予習・復習を実施した割合が上がっているため、今後も同様の方法で予習・復習を促していく。さらに、予習・復習課題の作成を検討していく。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、かつ、専門基礎科目から専門科目へのつなぎや入り口にあたる科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。本科目の予習・復習に関しても、毎回の講義で、実施を促していく。小テストだけでなく、予習・復習課題の作成も検討していく。これからも講義時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	永原 真奈見

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養教育論Ⅱ	3	前期	必修	いいえ	48

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本3年生においては、「栄養教育論Ⅰ」の科目を前任の先生により受講しており、「栄養教育論Ⅱ」から突然担当が変更することへの戸惑いと違和感があることが推察された。今回の受講動機をみると「必修科目である」が95.7%であったのに対し、「関心のある内容である」がわずか4.3%と非常に低かったことは、この講義への関心の低さを示唆するものであった。そこで、実践現場での教育事例を多く取り上げることで、関心を引きつけるように重点をおいた。 ②授業の最初に、将来の希望職種に関する調査を行い、管理栄養士の資格を生かした職を希望する者が多いことを確認した。希望は、保育園や小学校、病院、行政等、多岐に渡っていたので、幅広い対象における知識が深まるよう配慮した。 ③授業の始めに毎回、確認テストを行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終試験の得点の平均値（±標準偏差）は82.8（±10.0）点であり、半数以上が80点を超える理想的レベルに達した。成績の内訳は、Sは0人(0.0%)、Aは38人(80.9%)、Bは7人(14.9%)、Cは2人(4.3%)、Dは0人(0.0%)であった。 項目別に見ると、知識理解を問う問題（50点満点）の得点の平均値（±標準偏差）は43.6（±6.7）点で、思考判断を問う問題（50点満点）の得点の平均値（±標準偏差）は39.2（±4.9）点であり、両者に大きな差はみられず、目標を達成されたと判断した。意欲関心や態度については、講義への出席率や毎回の小テストの成果、指名質問に対する回答内容等から判断して、おおよそ目標は達成されたと判断した。遠隔の講義形式であった影響で、技能表現を評価する観点が少ないことから、次年度は学生の発言の機会を増やす等、検討を重ねたい。 学生による授業評価においては、知識理解の観点では89.4%、思考判断の観点では87.2%、意欲の観点では91.5%の学生が肯定的回答をしていたが、一部に否定的回答もみられたことから、次年度は全学生に配慮が行き届くように改善していきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみて内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」であり、必修である。管理栄養士国家試験の受験科目の一つでもあることから、様々な理論の理解が求められると同時に、就職後の現場で活かすための実践的思考力を身に着けることも重要である。事例を多く交えて、ライフステージ別栄養教育の理解が進むように工夫し、学生も、小テスト及び本試験において一定以上の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 自己評価において「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項目に関する評価が比較的低かったのは、実習や演習ではなく、講義形式であることを重んじたこと、また遠隔講義であったために意思疎通が図りづらかったことが理由として考えられる。コミュニケーション力や表現力に関しては実習科目の中で十分に補填していること、知識習得に関する成績は非常に良好であったことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本来であれば『栄養教育論Ⅰ』の中でしっかりと理論を教え、『栄養教育論Ⅱ』でライフステージ別の実践的な知識を教えるという流れで構成するのだが、上記の「授業準備について」でも述べたように、本3年生においては『Ⅱ』からの担当となったため、実践の現場での教育例等の紹介が教科書に準じた理論的内容とは異なる印象を与えた可能性が考えられる。次年度からは『Ⅰ』の中で理論をしっかりと定着させた上で、『Ⅱ』の実践的内容につなげるようにしたい。 また、本科目は教職科目との関連が大変深く、重複する内容もあるため教職の内容に触れることも多いのだが、教職を履修していない学生への配慮に欠けていたことは反省点である。 学生の意見として、「スライドが切り替わるのが早かった」というものがあったので、できるだけ時間を確保するように配慮したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	臨地実習に臨む上で、さまざまなライフステージにおける栄養教育の方法論を学ぶという観点から、基礎的知識の形成については概ね達成できたが、本科目の授業外の学習量が少なかったことは課題である。その理由として、「時間がなかった」や「他の教科の課題が多かった」等が挙げられており、この点については、学科の教員と連携をとる必要があると考えている。 講義であることを意識して知識の伝達に重点をおいたが、本科目はライフステージ別の事例紹介等を含むより実践的内容も多いことから、今後は学生自身に考案・発表させるような工夫をしていきたい。但し、知識の定着を図ることは大前提として必須事項であるので、毎回小テストの解説を利用して前回の講義内容の復習を徹底し、新しい内容の理解につなげていく取組みは、次年度も続けていきたいと考えている。 以上から、学生自身の自発的な取組みを増やすこと、教職内容との関連を明確にすると共に教職非履修者に対しての配慮を行うこと、余裕を持ってスライドの切り替えを行うことに留意していきたい。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	彌永 清子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養治療学Ⅰ	3	前期	必修	いいえ	52

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目では、傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を行うために、各疾患の成因・病態、治療法ならびに具体的な栄養管理方法について修得することを目的としている。また、疾病別栄養管理の知識に加え、臨床における管理栄養士の役割について理解し、健康維持・疾病からの回復に大きな役割を期待されていることを認識した上で、管理栄養士としての資質を身につけることも目標に掲げている。 本科目は卒業必修科目であり、かつ、管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、ほとんどの学生の受講動機は『必須科目である』との理由である。にもかかわらず、授業準備性について、十分とは言い難く、受講後の準備も不足していた。栄養学科3年前期は開講科目が多く、学外実習が始まる時期でもあり、学生も多忙を極め、事前事後学習の時間が十分に確保できないのが現状である。そのため、授業に集中して参加することで効率よく理解を深めるためにも、確認テスト・管理栄養士国家試験問題を導入することで、知識習得につながるよう努める必要があると考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	栄養治療学Ⅰにおける“学生が達成すべき行動目標”を鑑みた前期試験を作成し、その結果からの評価をまとめた。オンライン授業にもかかわらず、授業終了後に授業内容の復習を兼ねての質問を受けることもあり、意欲関心を示す生徒の様子がうかがえた。当該学年においては、学生の能力の差が大きく、修得状況の違いが個々によって異なったため、評価の幅が広がり、点数の二極化もみられた。臨床栄養学実習・臨地実習Ⅱにむけての学びを深めるために必要な科目であるため、次年度以降、確認テスト・管理栄養士国家試験対策問題の実施に加え、他に何らかの課題を提示することにより、知識確認のための強化に努めたいと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は卒業必修科目であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、28問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておかなければならない知識の一つである。このことは、学生の達成度自己評価の『職業選択』の項目において、全員の学生が参考になったと回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。学生の達成度自己評価においても、90%以上の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答したが、今年度の学生は特に、試験成績が伴っておらず、学生の達成度に対する認識と成績との間に乖離がみられた。原因の一つとして、シラバスの説明不足、特に、具体的な達成の目安に対する学生と教員との認識の差によるものと考えれ、次年度はより詳細なシラバスの説明を行うこととする。また、学生の達成自己評価の高さから、内容的妥当性については問題ないものとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目は、臨床栄養学実習・臨地実習Ⅱ・管理栄養士国家試験にむけての必須科目である。にもかかわらず、資格習得に必要だと感じている生徒は半分以下という結果であるため、生徒の目的意識の低さが感じられる。今後は、栄養治療学Ⅰを学ぶことで将来の管理栄養士像をイメージできる授業展開も必要だと感じている。そのためにも、臨床現場での経験談なども踏まえた授業展開も取り入れていきたいと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は卒業必修科目であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、28問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておくべき内容である。学生の達成度自己評価においては、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたとの回答であり、講義内容等についての問題はないものとする。しかしながら、試験成績における達成度が十分であったとは言い難く、学生の達成度と成績評価との乖離を縮小するために、シラバスの活用はもちろんのこと、講義内容ならびに1回の講義内容量について、再検討が必要であると思われる。また、引き続き、確認テストを実施し、学生の的確な知識の定着に加え、その理解度を量ることにより、学生の気づきを促し、さらには、自発的学習へと繋げたいと考える。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	坂田 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆栄養学Ⅱ	3	前期	選択	いいえ	52

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	管理栄養士としての専門知識を身につけることができるよう、教科書を中心に授業構成を行い、身近な事例を交えながら理解が深まるように配慮した。 また、毎回前回の復習を行い、専門知識の修得を図った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された		やや達成された	どちらともいえない		やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は69（±8.5）点であった。理想レベル（概ね80点以上）に達したものは8名であった。 学生による授業評価では、知識を確認・修正・新たに得ること、事象を理解する視点や考え方を得ること、専門分野において的確に判断する力の修得は3.7以上であったが、コミュニケーション力や表現力を高める観点が少し低かった。事前事後の学習量も少ないことから、予習・復習の示し方について工夫したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・CPカリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」であり、臨地実習Ⅱ・Ⅲに必要な科目であるため、管理栄養士としての知識・技術を修得するために工夫をした。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当である。 ・DP、行動目標からみての内容的妥当性 授業の評価から「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」と評価していることから、積極的に授業に参加するようにしたことは内容的には妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価において「説明は理解しやすいものであった」の平均が他より低かった。事例をあげ説明をおこなったが、テキスト等との連動が不十分であったためと考える。また遠隔授業であったため、学生の理解度が十分に把握できず、授業で使用了資料が適切であったかを把握しなかったことが反省させられた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	管理栄養士としての専門知識を身につけるためには必修の科目であることから、専門職としての知識・技術・判断・コミュニケーション能力等、総合的な知識が修得できるように工夫していきたい。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
給食計画論	2	前期	必修	いいえ	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	管理栄養士および3年次学外実習の要件科目であり、専門科目としては初期に履修する科目である。以上のことから、履修動機としては「必修科目である」が100%を占める。管理栄養士として栄養・食事管理を計画する過程を学ぶ科目であるが、現カリキュラムからは「食事摂取基準」に関する理論を学ぶ科目が1年次に開講されるようになったため、学生準備性は高い状態となり、栄養管理の指導に関しては非常に実施しやすくなっている。しかし、受講学生の計数能力の向上はみられず、給与栄養量などの算定方法等が含まれる本講義では、演習を取り入れながら理解を促すことに努めている。 本科目は、後期科目「給食経営管理実習Ⅰ・Ⅱ」の準備科目としての位置づけもしており、実習内容を意識させながらの講義を行っている。実際に、3年生前期科目「給食経営管理実習Ⅱ」で提供される給食の試食も義務化し、レポートを課している。給食の試食を通して、栄養・食事管理の実際に触れる機会としている。これにより、給食経営管理実習への関心の高まりを確認できている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価は遠隔対応のため、まとめテストそして小テストを実施したが、例年の試験単位数とは比較することが難しいと思われたため、授業評価の結果にのみ言及する。授業評価の「授業の質評価」および「到達度自己評価」を見る限り、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「課題を検討する力」、「的確に判断する力」、「学びを深めたい意欲」では回答者の97.1%（評価中央値：4.0）（昨年度：96.3%（評価の中央値4.0））が『そう思う』と回答しており、高い評価が得られている。しかしながら、残り3%弱（2名ほど）は『そうでないと思う』と回答しており、専門的な内容が難しく、昨年度同様に授業進度についてくるのが困難な学生の存在が明確となった。以上、授業評価の回答状況から推察して、DP1・DP2についてはやや達成されたと評価される。一方で、「学習量の評価」では、41.4%（昨年度25・9%）の者が予習に、61.4%（昨年度13%）の者が復習などの授業以外の学習の取り組んでいない状況であったが、昨年度から大きく増加した。明らかに予習・復習に取り組んでいる学生が増えており、この理由としては、今回の項目の予習を呼びかけたことや、国家試験に関連する項目について強調したことが今回の結果に影響していると思われる。また例年通り、限られた授業時間の中で教授可能となるように周知する知識とその優先順位を絞り、無駄を省いたことが影響したように思われる。これにより、DP3の達成度はやや達成されたと判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は専門応用分野としての位置付けであり、栄養・食事管理の実務的な科目である。また、管理栄養士の職務に直結する科目の中でも、最も早く履修する科目でもある。そのため、管理栄養士という専門職種への関心を向上させる意味でも重要な位置づけを持つと考えられるため、得られた知識を実践につなげることができるような授業計画が求められる。現在おこなっている「演習を併用した授業構成」は、到達度自己評価の結果からみても、理解を深めることに一定の効果を得ていると考える。DP3に関しては、学生の自己評価から中央値4.0（平均値4.0）ポイントという数値が得られているが、受講態度を含めて総合して評価する必要があるように思われる。一方で、「評価基準」、「説明の理解しやすさ」については中央値4.0（平均値4.1）ポイントと評価しており、授業内容や方法に関しては適切なものであったと考えられる。以上のことから、内容的妥当性は問題ないとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方法を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目は、給食経営管理実習の準備科目として説明すべき重要項目が多くあり、一方向からの講義形式になりがちである。しかし、単元ごと的小テストを導入したことにより、学生が理解しているか確認をとりながら進められたと考える。一方、学生間の学習への取り組み意欲では、予習・復習をする学生が昨年度より大幅に増加していた。これは、修得すべき知識の優先順位を明確にしたこと及び、特に復習すべき項目を明確に提示したこと、小テストを導入したことが自宅学習を促す要因となったと考えられた。一方で、毎年のことながら、多様な学生に専門的な内容を理解させることの難しさを感じる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本学科の2年次前期という時期は、専門科目が多くなり、学生が今後の進路の適正に関して不安を抱く時期でもある。講義で得られた知識が、実践へと移行している現場を観察してもらうため、毎年、3年前期・給食経営管理実習Ⅱで提供される給食の試食を義務付け、専門科目への学習意欲の向上を狙っているが、今年度は遠隔対応のため実施できなかった。そのため、後期から履修する『給食経営管理実習Ⅰ』への導入となりえる指導が叶わず、生産管理の単位では、これまでの給食経営管理実習の実習風景の写真を活用し、実習内容への理解と受講意欲向上に努めた。昨年度より修得すべき知識の優先順位をより明確にできるような講義を心掛けているため、自宅学習への取り組みは昨年度より改善されたと考える。本年度の取り組みで、小テストを実施することによる単元ごとのまとめは自宅学習を促進し、また学内実習や臨地実習で必須の知識や技術と国家試験で初めて必要となる知識とは明確に区別し、講義内容をより精査する必要があると感じた。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用栄養学実習	3	前期	必修	いいえ	47

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①応用栄養学実習は、講義の応用栄養学Ⅰ、Ⅱの実習科目であり、栄養学科の学生にとっては、卒業および管理栄養士受験資格必修の教科である。よって受講動機は「必修科目である」が100%であることは当然の回答であり、「関心のある内容である」が9.4%と低いことに関しては、昨年度同様、応用栄養学Ⅰ、Ⅱ（2年前後期）の講義が、学生にとっては関心を引き付けるような内容でなかったことや、本実習科目を応用栄養学の実習科目であることの理解につなげることが出来なかったことが考えられるため、講義における応用栄養学の内容に関して、次に続く実習に結び付けながら学生のモチベーションを保ちつつ、本実習に臨んでもらうことが出来るようにしていく必要がある。しかし2020年度は殆ど遠隔での講義実施であったために、学生のモチベーションを高めることが出来たかどうかの確認は出来ていない。 ②今年度はオンラインと対面のハイブリッド式の実習であったが、内容や進行は、今までと同様、学生に献立を調理させる前に示範をし、調理の際の留意点や栄養補給法のポイントを説明した。また各ライフステージにおける栄養学上のポイントを中心にスライドで講義を行い、講義と調理実習をセットで行うことで各ライフステージにおける食生活の違いを視覚的にも聴覚的にも捉えることが出来る講義内容となるように考えている。オンラインの時は、学生たちの意欲を伺うことが出来なかったが、授業評価の自由記述にも、興味を抱くことが出来たと考えられる意見が挙げられており、今後も試行錯誤しながら実習内容の検討を続けていく。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	今回はDP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(意欲関心)、DP4(態度)やDP5(技能・表現)までを、レポート課題や献立課題から評価した。結果は47名の受講生中、A(秀)が2%、B(優)が29.8%で、C(良)は17%、D(可)が31.9%と多かった。B(優)の学生が多いことは、意欲・関心を持って受講したことが考えられる。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断、意欲関心そして技能・表現、態度全てにおいて自己評価が高い。この実習への関心の高さは、課題内容と自己評価で判断することが出来た。また学習量の評価では、78%の学生が予習および復習を行っていた。このことは課題の提出が義務であったからという理由も考えられるが、シラバスにおいて予習・復習をする具体的な時間を記載していたことも学生たちの自学につながったと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である、卒業必修でもある。また座学の応用栄養学の実習科目でもある。このことから、受講動機の「必修科目である」が100%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価では、約75%の学生が予習、復習をしてくれていた。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にした学生は51%であった。シラバスを参考にした学生の43%が、「シラバスに沿って講義をうけることが出来た」、「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」と回答しており、この割合は昨年度よりも少し上がった。今後も実習初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の実習の進め方、課題提出や自己学習の仕方等を丁寧に実施していく予定であるが、学生の傾向を捉えながらシラバスをもっと活用していくように促す必要がある。予習復習等自己学習に関しても、課題以外の学習をも取り組むことが出来るように、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、座学の応用栄養学の実習科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。これからも実習時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	永原 真奈見

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養教育論実習Ⅰ	3	前期	必修	いいえ	48

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機において、「必修科目である」が97.8%であったのに対し、「関心のある内容である」がわずか4.3%と非常に低かったことから、この科目への関心の低さが伺えた。そこで、本科目は他者とのコミュニケーション力や個人や集団における教育力が求められる科目であることを周知し、発表等における内容の良し悪しよりも、積極性を重んじることを伝えた。 ②初回授業時に、前に出て発言する機会を設けた。大学入学以来、前に出ての発言や挙手による発表の機会は少なかったとのことで、人前で話することに苦手意識を持っている学生が多いことが分かった。そこで、毎回の実習の中で、学生が発言できる機会をより多く取り入れるよう配慮した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の内訳は、Sは8人(17.0%)、Aは31人(66.0%)、Bは7人(12.8%)、Cは1人(2.1%)、Dは1人(2.1%)であり、8割以上が80点を超える理想的レベルに達した。 栄養教育のためのリーフレット作成ではほぼ全ての学生が工夫を凝らした良いものを作成し、約1割の学生には特に高評価の者もみられた。また、特定保健指導の初回面談試験においては、遠隔実施のために画面に向かっての指導とはなったが、流れとポイントを押さえて的確に実施できた者が多かった。さらに、グループによる集団指導試験では、班員と協力して20分間の指導略案や学習教材を作成し、クラスの前で発表を行った。 学生による授業評価では、知識理解の観点では97.8%、思考の観点では95.7%、判断の観点では93.5%、意欲の観点では93.5%、態度の観点では93.5%の学生が肯定的回答をしていた。 講義で得た知識を用いて思考・判断する過程はほぼ全ての学生が達成していたように見受けられたが、意欲的に挙手をして発表をしたり、明るい表情やジェスチャーを交えながら余裕を持って話をしたりする態度は全員が習得する段階までには至らなかったことから、知識理解及び思考判断は「達成された」、その他は「やや達成された」と判断した。次年度は、人前での発言を苦手とする学生のフォローを徹底し					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」であり、必修である。臨地実習では、小学校や事業所、行政、病院いずれの実習においても、媒体の作成や個人あるいは集団指導の実施を求められることが多いことから、その基礎・基本を習得する上で非常に重要な科目である。そこで、毎回の実習の中で、学生自身が発言する機会を多く取り入れ、さらに実習の最終回では一人一人前に出て発言する機会を設けたところ、個人による差はあるものの、初回実施時とは明らかに異なる上達が見受けられた。また、話を聴く側のクラスの雰囲気も大変明るくなり、実習を通して、コミュニケーション力が高まったと考えられたことから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 自己評価においてはどの項目においても9割以上の学生が肯定的回答をしており、達成感を感じていたことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	放課後の時間に持ち越さないよう、実習時間内でしっかりと定着させることを重視してきたが、そのことが結果として「授業以外では学習に取り組まなかった」、「授業時間内での提出は避けてほしい」との意見につながったと考えられた。時間内に仕上げることの重要性も周知した上で、それでも後日の提出を望む学生については配慮をするように努めたい。 また、栄養教育論の講義と同様、本実習も教職科目との関連が大変深く、重複する内容もあるため教職の内容に触れることも多いが、教職を履修していない学生への配慮に欠けていたことは反省点である。また、欠席の取扱いに関する発言内容に留意し、基準は順守することを明確に伝えるように心がけたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生の就職後の活躍も踏まえ、栄養教育の手法を習得するという観点から、コミュニケーション能力や媒体作成の技術の習得については概ね達成できたが、学生自身の知識や思考判断の習得の実感度に比べ、態度や表現の習得の実感度がやや低かったことはことは課題である。 これについては、もっと多くの発言の機会を設け、自分の発言内容に自信が持てるようにすることが重要であると考えている。また、関連科目担当の先生方とも連携を図っていきたい。 また、「栄養教育論」の講義を通して基本的な理論に興味・関心が持てなければ、その理論を活用する本実習科目に興味を持てる可能性は少ないと考える。そのために、講義での理解定着を徹底させ、実習につなげていく意識を持ちたいと考えている。 以上から、教職非履修者に対しての配慮を行うこと、学生の発言の機会をさらに増やすこと、関連科目担当の先生方と連携して総合的に学生の発信力向上を目指すことに留意していきたい。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
給食経営管理実習Ⅱ	3	前期	選択	いいえ	47

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	選択科目であるが、栄養士・管理栄養士資格必修科目である。そのため、「必修科目である」と答えている学生が大半であり（95.6%）、また「資格取得に必要である」とする学生が42.2%であった。以上のことから、当該学年における資格取得への意識は高いことが示唆され、学習準備性に関しても十分であると判断される。本科目は、2年後期・給食経営管理実習Ⅰ（以降、実習Ⅰ）と連続した内容となっているため、実習に際して必要な内容は実習Ⅰで修得済みである。この前提の下で、各学生が給食のマネジメントを行う実習となっているため、非常に自主性が求められる内容となっている。本年度はコロナ対策をしながらの実施となったため、実習内容は多くの制約を要した。通常は、実習Ⅰで習得した知識及び技術を活用し、給食経営のマネジメントを実践し、100食程度の大量調理を生産・提供する実習であるが、食数を大幅に制限し、なおかつ『弁当給食』の形式で実施せざるを得なかった。しかしながら、『弁当給食』という特殊な提供方法を体験することにつながり、今後、現在のような感染症対策を実施しながらの給食の対処方法の一つを学ぶことにつながったと考える。最新技術に関しては、新調理システムとオペレーションについて、リアルタイムでデモを実施した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の自己評価においては、「知識を確認、修復したり、新たに得ることができた」100%（昨年度97.3%）、「課題を検討する力を得ることができた」100%（昨年度96.8%）、「学びを深めたいと意欲を持つことができた」100%（昨年度97.3%）と評価しており、DP1（知識）およびDP3（意欲）については概ね達成されたと考える。また、学習量の評価では、「1回30分程度以上の準備をどれくらいしたか」に対して、予習86.6%（昨年度76.7%）、復習82.2%の学生（昨年度84.9%）が1回以上は準備をしたと回答しており、課題を課すことで積極的な取り組みの姿勢が得られたと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	臨地実習Ⅰの準備性を高めるための科目でもあるため、特定給食施設の実務に則した内容を実施しているが、前述の通り、本年度は多くの制約のもとで実施した。学生の自己評価では「専門分野で必要となる技術を身につけることができた」100%（昨年度95.9%）、「職業選択の参考になった」100%（昨年98.6%）の評価が得られた。後期科目である臨地実習Ⅰに向けて、専門職に対しての動機づけの強化につながったと考えられ、カリキュラムマップ上の位置づけは適当であると思われる。以上のことから、内容的妥当性は適切であると考えられるが、一部の学生に管理栄養士への学習意欲が乏しいものがあることが推察される結果が散見されるため、昨年度同様に、意欲の低い学生に対しての指導方法を検討する必要があると考えている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価については、全項目とも中央値4.0と高いことから、授業の内容については適切であったと考える。さらに、「学習量の評価」と合わせて検討すると、学生が科目に対してある程度の準備性を持ち、また授業を受講するにあたり大多数の学生においてはモチベーションを維持していたということが推察されることから、授業の進め方に関しても適当であったと考える。一方で、情報収集の点ではインターネットの利用の頻度が高いため、引き続き、情報の正確性を見極めるメディアリテラシーへの指導強化をしていきたい。『学生からの意見』についてであるが、課題（献立課題）で精一杯であった等の意見が見られるが、例年通りの課題量である。今後は、学生の対応能力に応じて、課題量の修正が必要かもしれない。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生の到達度自己評価の結果から、管理栄養士として必要な知識及び技能に関する理解は深まったものと推察される。今後も、専門職として実務に携わるための指導を心掛けていくこととする。しかし、一部の管理栄養士の職務に対してのモチベーションが低い学生が出現している点に関して、実習を円滑に進める上でも指導方法を検討していこうと思う。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
総合演習Ⅰ	3	前期	選択	いいえ	46

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	3年後期・臨地実習Ⅰの事前指導を実施するための科目である。履修動機としては「必修科目である」が95.8（昨年度97.3）%を占め、「資格取得に必要」が45.8（37.3）%を占める。管理栄養士・栄養士資格必修選択科目であるため、前述のような結果となった。臨地実習に向けての、一般常識から特定給食施設に関する専門的知識の復習という広範な内容を盛り込んでいることから、オリエンテーションにて全体の計画を詳細に説明するようにしている。本年度は、対面形式で実施できたため、指導方法および内容自体は的確であったと断言する。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価の平均値は学年平均83.3点（昨年度72.0点）Aクラス平均83.4点、Bクラス平均83.1点であった。授業評価の「到達度自己評価」を見ると、「判断力」「課題検討」「意欲」「技術習得」「コミュニケーション力」等で大多数の学生が『そうだと思う』と回答しており、自己評価は平均3.9～4.0（中央値4.0）であり、例年とほぼ同等であった。しかし、「学習量の評価」では、75%（昨年度77.3%）の者が予習に、70.8%（76.0%）の者が復習に取り組んでいるおり、遠隔授業の影響もあってか双方ともに一定の取り組みがうかがえた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、3年後期より開講されている臨地実習Ⅰの準備科目である。特に臨地実習Ⅰは、最初の学外実習となり、社会規範や礼儀作法から指導を行わなければならない。そのため、専門科目の位置付けでありながら、専門知識の指導のみに重点を置くことができないという矛盾を抱える。新カリキュラム適用学年2年目であり、専門科目の修得が臨地実習Ⅰの事前指導に合致した状況が整っているため、給食施設における栄養管理の基本知識として不可欠なライフステージ栄養学を並行して習得できたことは、本科目の指導上でも大きな効果を得ていると考える。臨地実習Ⅰの事前指導科目としての位置づけでは、内容的妥当性は高いと断言する。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」では、3.8～3.9ポイント、中央値4.0（昨年度：3.7～3.9ポイント、中央値4.0）と高い評価であった。本年度の実施方法には、特に問題がなかったと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、学内で得た給食経営管理に関する知識と技術を学外実習（臨地実習Ⅰ）で実践可能とするための事前指導期間に位置付けられている。事前学習ノートによる知識の振り返りの必要性について指導したため、実習前の予習項目が明確になったと考える。一方で、社会規範に関しては、電話対応や挨拶、実習先での振る舞い等、必要最低限の指導は行えたと考える。なお、昨年度に引き続き、新型コロナ対策として、受け入れ先施設の安全を確保する観点から、次の対応を学生へ課したうえで、実習受け入れを許可いただいている。①実習1か月前からの基礎体温測定②実習1か月前からのアルバイトおよび交遊の自粛③実習2週間前から県外への移動の自粛④実習2週間前から基礎体温計測・記録および健康観察・行動記録の義務化（直前指導で提出させ、実習先へ提出義務化）⑤実習期間中のアルバイトおよび交遊の自粛これらの対応を実施した結果、実習期間に学生および実習施設関係者の感染疑いおよび感染者を出すことなく臨地実習Ⅰが無事に終了したことを付け加えさせていただきたい。なお、本対応は実習施設より高い評価をいただいている。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
総合演習Ⅱ	4	前期	選択	いいえ	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目では、『臨床栄養』および『応用栄養』の栄養学分野において、最新情報や重点事項を解説する。『臨床栄養』については、さまざまな症例検討を行い、これまでに学んだ臨床栄養に関する専門的知識を統合して、適切な栄養管理ができる実践的能力を養うことを目的としている。また、『応用栄養』では、食事摂取基準や身体活動基準、授乳・離乳支援ガイド等の厚生労働省が通知するガイドラインを活用し、各ライフステージに対応した適切な栄養管理が出来る力を養うことを目的としている。 本科目は管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、学生の受講動機は『必須科目である：93.7%』、『資格取得に必要である：54%』との理由であった。学修準備性について、例年4年次に開講される必須の授業科目が少ないこともあり、4年生だけは事前・事後学習の時間は十分確保されているものの、実際の事前事後学習の時間は十分とはいえなかったため、今年度のオンライン講義においても、クラスルーム上に事前確認資料をUPするだけではなく、事前に課題や資料を一括して渡したり、確認テストの導入等、事前事後学習に対し強化することを試みた。今年度は、事前・事後学習(予習、復習)に取り組んだ学生の割合が74%ととても高く、授業の課題以外の学習に取り組んだ学生も多く見られた(40%)。次年度以降も対面での講義実施であれ、遠隔授業であれ、事前事後学習の強化を継続していきたいと考える。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目では、DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(意欲関心)、DP4(態度)、DP5(技能・表現)までを定期試験から評価した。本試験の平均値は56点であり、標準的レベル(60点以上とする)に至らなかった。レベル別にみると理想的レベル(80点以上)は4名(5.2%)、標準的レベル(60点～79点)が33名(42.9%)であった。不可は40名(51.9%)ととても多く、50%程度の学生は標準的レベルに至っていない。昨年度はオンラインにての試験実施であったが、今年度は対面での試験を実施した。講義は遠隔での実施、試験は対面ということもあり、遠隔講義中の学生の受講態度を確認できなかったこと、予習・復習を行っていたと回答した学生の割合は多いが、その学習が学生の講義理解に結び付いたのかの確認はできていないため、今回の試験結果から考察すれば、学生の講義理解には直接結びついていない可能性も考えられた。これらの理由が、昨年度よりも標準的レベル以下の学生が増えた一因と考える。次年度以降は、標準的レベルに達する学生の割合を増やすこと、さらには、理想的レベルに達する学生を増やすことを目標に、教授法の見直し、予習の実施、復習テストの導入等、次学年の学習意欲や習得レベルに合わせた対応が必要になると考える。学生の到達度自己評価では、90%以上の学生が専門的知識および技術の修得を得ることができたと回答していたにもかかわらず、約95%もの学生が理想的レベルの知識と技術の修得、つまりは、実践的能力の獲得には至らなかった。自己評価と成績(結果)に乖離が見られてはいるが、この教科への学生の学びを深めたいという意欲は高い(約90%以上)、次年度以降もその学年の学修レベルに合わせた教授法や講義進捗を考えながら、展開していくことが必要と考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、臨地実習Ⅱ・Ⅲを終えた4年次前学期に開講しており、管理栄養士国家試験の受験資格の必須科目である。専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じであるため、本科目に対する達成度が高いことは明らかである。学生の達成度自己評価においても、90%以上の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答している。試験結果に関しては、標準的レベルを達成できた学生が少なかったが、学生の受講意識と自己評価が高いことを鑑みると、講義の内容的妥当性については問題ないものと考え、次年度以降も学生（学年）の理解、修得レベルに合わせた講義進捗と講義内容の検討を試みる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったことから、本科目の内容等についての課題はないものと推察され、今後も引き続き、高い達成度を目標にしたいと考える。遠隔講義でも、インターネットを使用したりなど多くの学生が情報検索の工夫を行っており、学習意欲の高さがうかがえた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、臨地実習Ⅱ・Ⅲを終えた4年次前学期に開講しており、管理栄養士国家試験の受験資格の必須科目である。専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じである。学生の成績は普通レベルないしは標準より少し下であるが、達成度自己評価において、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたことから、講義内容等についての課題はないものとする。今後、より一層の学生の理解を深めるためには、学生の事前事後学習を促すための対策の継続が必要であると思われ、次年度以降も資料配布ならびに確認テストの継続、さらには第1回講義開始前のオリエンテーション時における事前事後学習の推進（今年度は、シラバスに沿って授業計画を立てた学生（41%程度）はまだ少ない。また、教員のオリエンテーションに沿って授業計画を立てた学生（23%程度）もまだ1/4もいない。）、学習法の具体例の提示等、事前事後学習に対し、さらに強化していきたいと考える。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
実践調理・調理科学演習	4	前期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①この科目は「専門基礎科目」、「専門教育科目」の「実践活動・専門研究」の選択科目である。4年後期に開講される。 ②受講動機は「関心のある内容」が83.3%、「単位数を確保する」が33.3%で、4年後期の選択科目ではあるが、実践調理や調理科学等に関心のある学生が受講したと推察される。 ③演習であるため100分以内できるコンパクトな調理科学実験や試作等を組み、1年時に修得した調理理論、調理操作の復習及び新しい食材や人気の食材等を使ったメニューの試作を試みた。 ④毎回、実験レポートや試作後のレシピの作成を課題とし、評価対象とした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された			達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の自己評価到達度の平均と中央値は、「知識を確認、新たに知ることができた」が4.7、5.0点と高く、調理科学や調理実践に関心のある学生に取って有意義な履修となっているようだ。また、成績平均値は79.4±12.7点であった。受講生は8名で実践は得意だが、レポートは苦手なようだった。 実験レポート作成やレシピ作成のスキルも向上する必要がある。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」、「専門教育科目」の「実践活動・専門研究」の選択科目である。4年後期で新たに調理理論や実践に興味を示し、さらに調理技術や知識を修得したいと考えている学生のためにも、より新しい内容で、卒業後、役に立つ演習を検討していきたい。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 調理科学に興味を示し、実践し、知識の復習及び修得が可能であるため、妥当と言える。 ③まとめ 以上より、内容的妥当性に問題はないと思われるが、履修学年を下学年とし、早い段階で調理科学実験等を修得させることを希望する。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	選択科目であるため、調理に関心のある学生に限定されるが、下学年で修得した調理学の復習及び確認をすることが第一の目的である。さらに、食材の調理科学としての特徴だけでなく、特殊食品の取扱いやかたさの調整、その測定など応用までを実践できるよう、簡潔な実施内容の検討が必要である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	遠隔授業期間ではあったが、実験や実践による確認や経験を必要とするため、対面で行った。 可能であれば、調理技術や理論は、下学年で修得させたほうが調理技術向上につながると考える。 また、4年生で実施する場合は、発注や食材の保存、デモンストレーションの準備など調理の実践に必要な全体のマネジメントも計画、実施できるように進めていきたい。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫 ・ 西村 貴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
運動栄養演習(スポーツ栄養含む)	4	前期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	運動栄養学に必要な基礎知識を習得するとともに、様々なスポーツの競技種目の特性について、文献調査や、他職種の現場スタッフ（実務家教員）の講話などを通して理解を深め、管理栄養士として、運動・スポーツ分野で活躍するための実践能力を身につけることをねらいとした。そのため、最初にスポーツ栄養の基礎となる「運動生理学」担当教員の授業を展開した後、実際の現場で活動する公認スポーツ栄養士、20年に亘りプロスポーツ選手や福岡県でトップを走るチーム専属として活動するトレーナー、さらに、長年、福岡県を中心に健康増進・スポーツ施設の開設や事業運営を展開するスポーツビジネスの専門家を実務家教員として招聘し、より現場のニーズを把握可能かつ日本のスポーツ・運動分野と栄養の関連について検討する実践に繋げる授業を展開した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	スポーツにおける競技特性に関する基礎知識を修得後、各自に課題として与えられた競技スポーツについて、情報収集と栄養面からの分析を行った。情報収集には、図書館の図書や学術データベースを利用する（6人中5人、83.3%）など、より科学的かつエビデンスに基づいたスポーツと栄養の関連についてまとめ、プレゼンテーションを行うといった授業計画とした。「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」、「職業選択の参考になった」と評価した学生が学生6人中6人（100%）と高い割合を占めた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上、本科目は「実践栄養分野」にあたる科目である。将来の進路を検討するためのより深い知識・技術を身につけるため、問題解決能力、論理的思考能力、企画立案能力を養うことを目的としたという点において、内容的には妥当であったと考える。特に、運動・スポーツの分野は、スポーツ産業という様々な異業種の集まる大産業である。DPの方針に則り、様々な業種を理解し、栄養の専門家としての職業倫理を獲得するような内容とした。自身の考えをまとめ、発言する機会を多く持った。成績評価から「知識理解」「思考判断」の達成度が高かったことから、内容的には妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業中は、各自の意見をまとめ、学生同士のグループディスカッションを行う時間を多く持った。また、学生が持つ疑問をできる限り拾い上げて、学術的に調べる、考える機会を作った。これは、「授業の質評価」で学生の積極的な参加、「図書館利用」で情報を収集といった具体的な学生の行動として現れていた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	実践栄養分野にあたる本科目の位置づけから、論理的思考能力や職業倫理の獲得するといった点については概ね達成できた。 「運動生理学」と「栄養」の基礎内容を振り返り、理解を深めさせるための時間はさらに必要と考える。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	彌永 清子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床栄養管理演習	4	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	超高齢社会を迎える日本では、健康寿命延伸のためにも管理栄養士に課せられる役割は大きと考えられる。そのためのツールとして栄養学の知識と中国伝統医学（東洋医学）の知識の融合を深めさせ、実践に結びつく授業展開を行った。また、日常生活の中で生徒が感じている不定愁訴などを確認しながら、食からのアプローチ法を伝え、レポートを通じてきめ細やかな指導を心掛けた。受講動機も「関心のある内容、との理由が100%であるため、西洋医学と東洋医学の総合医療の関心度の高さの結果だと考える。食養生のために東洋医学で登場するお茶や食材を紹介し、より実践的な指導を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	この授業に掲げている「学生が達成すべき行動目標」を鑑みたレポートを授業ごとに課題とした。受講者が、インターネットを利用しての情報収集を行ったことで、授業内容をより幅広い形でまとめたレポート提出につながった。また、図書館およびインターネットの利用も認められ、本科目に対する学修準備性の高さが窺え、このことは、学生の到達度自己評価においても同様の結果を示しており、専門的知識および技術の修得に対し、達成できたと回答していた。以上のことから、本科目における教育目標はおおよそ達成できたものと予想される。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本教科は、臨床における管理栄養士の役割と専門性を理解し実践につなげることを目的としている。対象者に合わせた献立作成時でも、季節や体質・体調を考慮した提案を実践させることに重きを置いている。学生の達成自己評価の項目においても99%の学生が専門的知識・技術の習得並びに判断する力等において達成できたとの回答だったことから内容的には妥当であったと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	薬膳茶・薬膳食材を紹介することにより食養生を身近に感じる授業展開が可能となったと考える。生徒からの意見として、食材に触れることができ、知識が深まったとの声が多く寄せられた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	就職活動や管理栄養士国家試験対策などで忙しい学年にもかかわらず、レポート提出に向けての前向きな姿勢や授業外での自己学習の姿がうかがえた。西洋医学の知識をもった管理栄養士が東洋医学の知識を持ち、一次予防の観点（不定愁訴などを含む）からも介入ができる管理栄養士育成のためにもこのような授業を取り入れることも必要ではないかと感じている。今後においても授業の進め方や内容を精査し、授業への関心・意欲が高まるように更なる改善を図りたい。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職概論	2	前期	選択	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①オンライン講義となったために、説明用のパワーポイントを作成した。パワーポイントは講義に集中させることを目的としたので、高橋メソッドという技法を用いた。 ②試験はオンラインで記述式を含む方式を採用した。オンラインの試験はなんとかできると感じた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成されなかった	やや達成されなかった				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	試験の平均は46.2であり、大半が再試験となってしまった。非常に好成績の学生もいるが、全体として良くなさ過ぎた。再試験ではみんながんばってきたので、ホッとしている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職課程の科目なので、問題はない。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	オンラインに馴れてきたので、まずまずであると思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	満足はできなかった。課題については、来年度はないので、特に記述することはない。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育心理学	2	前期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	平和で幸せな地域の実現と、より良い社会の建設は教育の成否にかかっている。教職を目指す学生には良い社会の形成に関わるという責任と自覚を持って授業に臨むよう学生に求めてきた。シラバスに記載したように教育に貢献できる心理学的知見を紹介しながら「理想を失わない現実主義者」としての教師になる内容を出るだけ厳選して授業に臨んだ。評価アンケートの結果をみるとおおむね達成できたと思われる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	達成の評価の根拠は定期試験の内容である。しっかりと授業者の求める論点に従って書かれている学生が多く、授業者の意図をよくくんで内容を理解していることがわかる。（客観的データとして学生の成績平均を参照して頂ければ分かる）授業アンケートの集計結果も満足のいくものであった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「映像は100の言葉に勝る」と思われる。スマホ時代の真ん中にいる学生たちには言葉による講義だけでは集中力が続かないことは経験上理解している。その為に毎回の授業では映像を見て考える時間を取っている。アンケート結果をみるとこれは概ね好評である。ただ学生らの意見の中には出来るだけ授業者の話をききたいという要望もあるので今後この点を改善して新たな方法を試みてみたいと考えている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年度の取り組みでもあったが学生が達成すべき目標を4点シラバスに記載しているが、授業のはじめに説明しておいたこともあり、学生の自己評価および授業者の目から見ても満足のいくものであった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	昨年同様に概ね年度当初の授業目標は達成したものと考えている。しかし多様性と個別化を体現している現代の学生のニーズに対応してグループワークや発見学習など多彩な講義時間の運営方法の工夫とさらなる知恵を出していく必要性を痛感している。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
特別支援教育論	3	前期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	開講時間数が7回の1単位授業のため、特別支援教育の理解に最低限必要な内容についてパワーポイントを利用して講義した。別途資料等を紹介した。テキストについては副教材としての利用を勧奨した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された		やや達成された	やや達成された		やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	レポートの内容や授業で関心をもった内容についてのコメントから概ね達成されたと判断できる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容的には妥当であったと判断できる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	4 学科合同の授業であり、レディネスペースでは学科間で多少違いがあることを念頭に入れ、授業中にすべての学生ではないがそれぞれ学科の学生に確認しながら、解説した。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	7 時間の授業での制約を踏まえ、また授業中に紹介した資料等にアクセスした学生や自分なりに調べ学習を実施した学生のコメントから、すべての対象学生とは言い切れないが概ね理解が深まったと考えられる。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育方法論	3	前期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①後半におこなっている授業づくりと模擬授業の実施が受講生が多いためなかなか全員が実施することができない恨みがあった。今年度は前半の座学を後半の授業づくりと連動させることで精選し、後半の時間を確保した。そして、すべての班が教壇に上げられる機会を設けることにした。 ②模擬授業のための教材が一つだと飽きてくるという意見も多かったので、今年度は教材を小中にわたって多様な発達段階のものを準備した。 ③評価シートを改善し、相互批判の時間も確保するように工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	試験の平均点は67.7で、数人の学生を除き、おおむね成績は良好である。意欲のある学生の努力が感じられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職課程の科目なので問題ない
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	後半の模擬授業は教職への実感を感じさせているようである。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	意欲的な学生が出てきている。来年のことは差し控えたい。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	扇谷 恵美子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
学校栄養指導論Ⅰ	3	前期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施については、一方的な講義方式ではなく、「学生の主体的な学びを重視した授業展開」に努めた。そのため、学生自身に調査させる場面を多く設定した。そして、調査結果や意見は文章や絵図等にまとめさせて、プレゼンで発表させた。「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」という項目の自己評価が4.2点と高いのは、こうした授業展開による成果だと考えられる。 一方、受講動機に「関心のある内容である」とする学生が少ないため、学生の興味関心を高めるような話題を取り入れることにも努めた。 具体的には、最新の資料や身近なトピックを活用した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	主に、プレゼンやレポート、意見や質問等の挙手発表により、評価を実施した。独自に設けた5段階評価によれば、平均4.0点あった。最低点の学生においても、3.5点であった。 また、学生達自身のアンケート結果においても、到達度自己評価は、全ての項目で3.5点以上ある。特に、「コミュニケーション力や表現力」に関しては、4.2点と大変高く評価している。 これらの結果から、目標は達成されたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1, カリキュラムマップ上の位置づけから考えての内容的妥当性に関して 本科目は、教職に関しての基本的な内容から栄養教諭の実務的な内容への転換点となる科目である。学生は良好な成績を収めており、内容的に妥当であると考える。 2, DPからみての内容的妥当性 どの学生のレポートや質問・意見もきちんとした内容であり、知識面の理解が定着しつつあることがわかる。また、本科目実施前よりも、栄養教諭の実務への興味関心や栄養教諭になりたい意欲が高まってきたことが、発言やレポート等の中で多く示されるようになってきた。これらにより、内容的に妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の項目は、比較的に高めの評価である。次年度も、「学生が主人公となる授業」「学生に寄り添う授業」を目指して、授業構成の更なる創意工夫に努めたい。 学習量に関しては、予習・復習や自主的な発展学習を実践している学生が少ない。つまり、授業中の学習だけになりがち傾向である。次年度は、この点に目を向けて、学生への声掛け等に配慮したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	栄養教諭の使命や実務を具体的に把握していく導入の科目として、基礎的な知識理解や思考判断、意欲関心、態度は達成できたと考える。 また、授業展開も、概ね適切であったと考える。 ただし、次年度は、学生間で討論する場や情報を多方面から収集する場を、更に多く設定するように努めたい。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
道德教育の理論と実践	2	前期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目であるため、学生の意識の上では準備がある程度なされていると考える。ただし、小中時代の道德教育の実施状況から考えて、非常に意識しにくい科目であると予想される。そのため本授業では授業実践としての道德教育を具体的な形で意識できることをひとつの焦点とした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	○2020年度 全体平均80.7、栄養学科平均80.7、秀11.1%、優33.3%、良33.3%、可11.1%、不可11.1% ○2021年度 全体平均81.3、栄養学科平均81.3、秀25.0%、優50.0%、良16.7%、可8.3%、不可0.0% 標準偏差7.11 ○本年度は不可が0、可も1名のみと全体的に良い結果となった。データの散らばりも小さく、他学科と比較しても同程度であり満足できる結果であった。 ○秀と優で全体の75%を占めた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目ということ、また従来型の理論偏重の道徳教育ではない実践的アプローチを採用しているということを鑑み、内容的な妥当性はあると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	○授業の進め方としては(1)道徳とは何かという理論編(2)日本の学校教育における道徳教育の位置づけ(3)学習指導案の構造と授業の実際(4)自分で道徳の授業を組み立てる、というものであった。 (3)と(4)に関しては同時並行という形になり、常に自分ならどのような授業にしたいかを考えて授業に参加することを求めた。 ○本年度は実際の学校現場で用いられている各種資料の参照、理解度を深めるための課題等について多様な形式を工夫した。 ○指導案作りに関しては、いくつかの段階を踏んで作成できるよう課題作成・提出を組み合わせた。 ○今年度は昨年度良好な結果であったオンラインによる課題の工夫を難易度や負担の観点から改善した。次年度が対面授業となった場合に同様の効果が得られるよう授業計画を行いたい。 ○児童生徒を意識した授業づくりの楽しさを一層感じることができる授業としたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	○達成状況は十分満足できるレベルにある。 ○次年度も全員合格かつ良以上の成績に到達できるよう、内容や方法を改善したい。今年度は動画の授業実践の視聴と検討に時間をかけたが、これは比較的理解を深めるきっかけとなったと思う。次年度も同様の試みを継続する予定である。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	栄養学科
氏名	渡邊 義隆

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生徒指導論	3	前期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学生の授業評価アンケートによると、受講動機として「資格に必要」が100%となっており、教員免許や資格取得に向けた意識が高いことが推察される。 ②授業にあたっては、基本的な教育法規、特に生徒指導に関することを中心に学習させた。最も重視したことは学生が教師として教壇に立った時にすぐに必要となる対応・指導・その後の見守りを実際の事例を中心に授業を展開した。 ③今年度もリモート授業のため、グループ学習や発表等の授業ができなかったことは残念であったが、学生からの意見としては、授業に余裕があり、時間配分や記述する時間の確保ができ、学生からは好評であった。昨年度と同様に授業のまとめの提出を二日後にメールでの提出にしたため、学生とのやり取りもでき、内容が非常に良く充実したものになった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①（目標を達成した）の項目では、同科の受講生6名中「かなり」「わりに」「まあまあ」すべてが肯定的回答であった。このことから目標に達したと言える。 ②学生の（知識）（理解）に関する達成自己評価を見ると、それぞれ肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「1名、3名、2名」「1名、2名、3名」で100%であり、否定的回答は0名であった。このことから目標に達したと言える。 ③学生の思考判断に関する（検討する力）（判断する力）それぞれ肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「1名、1名、4名」「0名、2名、4名」で100%であり否定的回答は0名であった。このことから同様に目標に達したと言える。 ④同じく意欲関心に関する（意欲）では肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「0名、2名、4名」で100%であり否定的回答は0名であった。このことからすべての学生が意欲をもって授業に参加したと言える。 ⑤さらに技能表現に関する（技術）と（コミュニケーション、表現力）の習得では、肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「0名、1名、5名」「0名、2名、3名」であった。すべてが肯定的回答であった。このことからほとんどの学生が技能表現を習得できたと言える。 ⑥（職業倫理）や（職業選択）での肯定的回答は、それぞれ「0名、2名、4名」「0名、3名、3名」で100%であり否定的回答は0					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上における本科目の位置付けから見ての内容の妥当性としては、教員免許の取得に向けた受講であり学生の志向に 応えるために、まさに現場の生の状況に触れることにより対応や指導を学ぶことができた授業であり妥当性があるものと思われる。 ②「学習到達度の自己評価」ではすべての項目で肯定的回答であり授業の到達度の目標が達成できたと言える。 ③自由記述では学生が教員を目指すにあたり良い職業選択ができるよう授業を進めてきたことから、担当教員への感謝の記述などをいただき 教員を目指して努力する姿に応援できるよう来年度に向けての励みになった。 ④まとめ、以上から内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方 策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答を お示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学生の担当教員への意見は「リモート学習であったため、途中で休憩を入れることによりリフレッシュでき良かった」との意見があっ た。 ②授業の質評価についたはすべての項目で肯定的な回答となった。 ③学習量の評価については概ね良かったのではないかと、学生がニュースや新聞等、特に教育関係の物に対して興味関心を持って調べたり事 例検討を行うなど学生が積極的であった。 ④情報機器の活用はリモート授業のため度合いはわからなかったが、活用しやすかったのではないかとと思われる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総合評価として、概ね良好であった。栄養教諭については、学級担任を持つことがないが「チーム学校」の一員としてどう関わるかを考え させる授業づくりをおこなった。昨今、教師という職業は非常に大変である職業のように言われているが、子ども達の成長する姿、人生の 一部分であるが関わることのできる素晴らしい職業であることを、学生に伝えることができたのではないかと総合評価を感じることができ た。 来年度は学生が主体的に授業に参加できるよう考えてまいりたい。